

平成26年度  
セント・ピーターズバーグ市派遣  
高校生親善研修生報告書

平成26年度7月21日(月)～8月5日(火) 16日間



公益  
財団  
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

# 目 次

1. 日程	1
2. セント・ピーターズバーグ市派遣 高校生親善研修生滞在日程表	2
3. フォトギャラリー	3
4. 親善研修生 報告書 I 香川県立高松西高等学校2年 川井 樹里	
日誌・活動記録	5
感想文「将来の糧となった2週間」	16
5. 親善研修生 報告書 II 香川県立高松高等学校2年 久保 一毅	
日誌・活動記録	17
感想文「気づいたこと」	28
6. 親善研修生 報告書 III 高松市立高松第一高等学校2年 吉岡 花瑛	
日誌・活動記録	29
感想文「Spice of life」	41



# 日 程 表

## 高松空港ータンパ空港

日 付		便 名	発着時刻
7/20(日)	出発	高松空港	JL6194 20:30
	到着	成田空港【ホテル日航成田で前泊】	22:00
7/21(月)	出発	成田空港	JL10 14:30
	到着	シカゴ空港	12:30
	出発	シカゴ空港	AA2409 17:35
	到着	タンパ空港【現地お出迎え】	21:05

7/21(火)から8/4(月) セント・ピータズバーグ市でホームステイ

## タンパ空港ー高松空港

日 付		便 名	発着時刻
8/4(月)	出発	タンパ空港【現地お見送り】	JL7439 8:05
	到着	シカゴ空港	9:50
8/5(火)	出発	シカゴ空港	JL9 12:45
	到着	成田空港	15:35
	出発	成田空港	JL6195 18:10
	到着	高松空港	19:50

## 平成 26 年度セント・ピーターズバーグ市親善派遣研修生 滞在日程表

平成 26 年 7 月 20 日(日) - 8 月 5 日(火)

日時	場所	研修内容
7 月 21 日(月)	タンパ空港	・セント・ピーターズバーグ市役所職員、ホストファミリーのみなさんによる出迎え
7 月 22 日(火)	各ホストファミリーと行動	
7 月 23 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成 25 年度受入研修生による市内案内●</li> <li>・セグウェイでダウンタウンを観光 ・タンパベイ・タイムズ(新聞社)を見学</li> <li>・南フロリダ大学、セント・ピーターズバーグキャンパスを見学</li> <li>・ガリ美術館見学(現地連絡員による日本語解説)</li> </ul>	
7 月 24 日(木)	セント・ピーターズバーグ市役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長表敬</li> <li>・市議会表敬(高松・香川についてのプレゼンテーション)</li> <li>・CM 撮影</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成 25 年度受入研修生による市内案内●</li> <li>・レイクウッド高校見学</li> </ul>	
7 月 25 日(金)	トロピカーナフィールド	・タンパ・ベイ・レイズ野球観戦
7 月 26 日(土)	アル・ラング・スタジアム	・タンパ・ベイ・ローディーズサッカー観戦
7 月 27 日(日)	・2 週目のホストファミリーと交代：ホストファミリーとの交流パーティ	
7 月 28 日(月)	各ホストファミリーと行動	
7 月 29 日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成 26 年度受入研修生による市内案内●</li> <li>・セント・ピーターズバーグカレッジ見学 ・姉妹都市学生ディスカッション</li> <li>・陶芸体験(モレアンアーツセンター)</li> </ul>	
7 月 30 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成 26 年度受入研修生による市内案内●</li> <li>・セント・ピーターズバーグ空の旅(30 分の周遊飛行・操縦体験)</li> <li>・小児病院(オールチルドレンズホスピタル)見学</li> <li>・セント・ピーターズバーグ歴史美術館見学</li> </ul>	
7 月 31 日(木)	サンケンガーデンズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流委員会主催 歓迎会</li> <li>・サンケンガーデンズ見学</li> </ul>
8 月 1 日(金)	各ホストファミリーと行動	
8 月 2 日(土)	各ホストファミリーと行動	
8 月 3 日(日)	各ホストファミリーと行動	
8 月 4 日(月)	タンパ空港	・セント・ピーターズバーグ市役所職員、ホストファミリーのみなさんによる見送り



st.petersburg  
www.stpete.org

# St.Petersburg Photo Gallery 2014



ホストファミリーと対面



セグウェイで市内観光



タンパベイ・タイムズ見学



ダリ美術館見学



セント・ピーターズバーグ市役所でCM撮影



市長表敬



市議会見学



レイクウッド高校にて



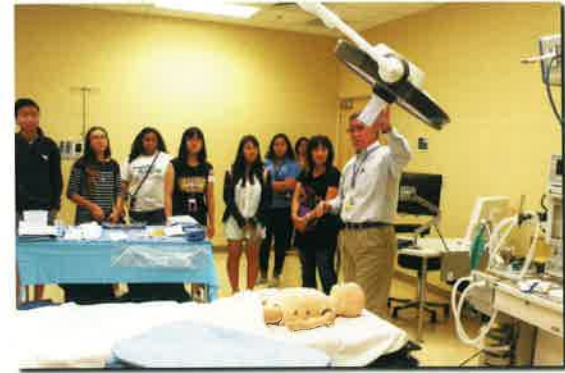
セント・ピーターズバーグカレッジ訪問



モリアンアーツセンターにて陶芸体験



セント・ピーターズバーグ空の旅



オールチルドレンズホスピタル見学



セント・ピーターズバーグ歴史博物館見学



サンケンガーデンズ見学

# 親善研修生 報告書 I





## 日誌・活動記録

香川県立高松西高等学校 2年 川井 樹里

### 7月20日(日)



高松空港にて

今日は、いよいよ出発の日です。

この日は本当にずっと緊張していました。2週間という期間を海外で過ごすというのは人生初の事だったので、今更になってもっと英語を勉強していれば良かったと思い、不安な気持ちで一杯でした。しかし、今年度のセント・ピーターズバーグ市からの親善派遣研修生の1人であるマラックが高松に滞在していた時に、「私も高松に来るまでは2週間色々な事をやっていけるのだろうか、と不安だったけど、高松に来てみたらとても楽しくてすぐに不安な気持ちはなくなったよ。」と言っていた事を思い出して、自分を勇気づけました。

19時に高松空港に集合し、成田空港へと飛び立ちました。この日は天候の為羽田空港行きの便が遅れていたため、成田空港行きは大丈夫だろうか心配しましたが、無事定刻通りに出発できて安心しました。成田空港到着後は、早朝のシカゴ行きの便に乗るため、前泊するホテルへ向いました。ホテルでは研修生のみんなと「今日寝たら、しばらくは日本では寝られないね。」と言って少し名残惜しい気持ちにもなりましたが、明日からはセント・ピーターズバーグ市できっと一生忘れることのできないようなことがたくさん待っているんだろうと思い、胸を躍らせました。色々と語りあってしまい、2時頃就寝。

### 7月21日(月)

今日はいよいよアメリカへ出発の日です朝、ホテルのバイキングで朝食を食べ、すぐに成田空港へ向かいました。空港内のガイドさんや高松市国際交流協会のスタッフの方とも別れ、ここからは、自分達だけなのかと思うと、本当に高校生3人で異国の地でやっていけるのかと心配になりましたが、自分達だけで責任を持ち、考えて行動することができることに胸が弾みました。しかし、すぐにハプニングが起きました。経由先のシカゴ行きの飛行機が機体整備の為、予定通りの時間に飛ばなかったのです。何時間も待ち、ようやく飛行機に乗ることができました。機中では4本ぐらい映画を観たので、3時間程しか眠っていませんでした。そして、やっとシカゴ空港に着くと、とても優しい日本人のガイドの方に案内してもらい、時間があつたので、色々とお店を見てまわりました。周りを見てみると日本人は本当に少なく、もうここからは自分達が外国人なのだ気付かされました。空港はとても広く、空港内には高さが地球上で最も背の高い「ブラキオサウルス」という恐竜の化石もあり、スケールの大きさに驚きました。その後、色々買い



ブラキオサウルス

物をして、タンパ空港へ向かう飛行機に乗りました。到着するまで特にすることもなかったので、ずっと眠っていました。

そして、目覚める頃にはタンパ空港に着いていました。当初の予定とは変わり、夜の21時頃の到着だったにも関わらず、セント・ピーターズバーグ市役所、現地連絡員の方、ホストファミリーの皆さんが笑顔で出迎えてくれて嬉しかったです。その時初めて私のホストファミリーと会いました。1週目のホストマザーのダイアン、2週目のホストマザーのチカさん、ホストシスターのミカが来てくれていました。どちら



ホストファミリーとの対面

らのホストファミリーも挨拶の時に抱きしめてくれて嬉しかったです。到着時間が遅れていたもので、研修生とホストファミリーの記念写真と撮るとすぐに解散となったので、あまり2週目のホストファミリーとお話しができませんでしたが、日本とアメリカの小さな旗とお菓子と手紙を下さいました。手紙には「私達は家族なのだから何か困ったことがあったら何でも言ってね。」と書かれていて、とても嬉しかったです。1週目のホストマザーのダイアンと家に向かいました。ダイアンとは、車の中で家族の話で盛り上がりました。イギリスに住む夫と、ベイリーとサラという2人の娘がいると話してくれました。ベイリーとサラは、もう独立し、現在、家族はみんな違う所に住んでいるとのことでした。ダイアンの住んでいる34階建てのマンションは香川では見たことのない位高く、唖然としてしまいました。部屋に入ると、ダイアンにお腹はすいているかと聞かれたので、少しと答えるとダイアンの家族が世界一美味しいというチョコチップアイスクリームを出してくれました。確かに世界一と言ってもいい位美味しかったです。今回の滞在はダイアンと私の2人きりになるけれど、ダイアンがとても優しく明るい人なので、楽しくなりそうだと思います。24時頃就寝。

## 7月22日(火)



みんなと楽しい時間

今日はダイアンと買い物に出かける予定です。朝食を食べ、その後、ダウンタウンの観光を兼ねてダイアンの行きつけのパン屋さんへ行きました。パン屋というのに、日本とは違ってパンと同じ位の種類のケーキやチョコレートが売られていて驚きました。ダウンタウンは、高級なお店が立ち並んでいました。また近くにはビーチがあり、美しい海の青さがとても印象的でした。街を見て思ったのは、高い建物が多く、デザインや色使いが香川にはないような個性的なものが多いということです。黄色やピンク色の建物や、大きな滝があるマンションもありました。ダウンタウンの散策後は隣町のタンパにあるインターナショナルプラザアンドベイストリートというとても人気のあるショッピングモールへ行きました。初めてのアメリカでの買い物だったので、とてもわくわくしました。10代向けの服をみると、日本とは服の好みが少し違うように思えました。こちらではカジュアルな服やスポーツ向きの服が多く、日本ではよく見るフリルのついたようなものは見受けられませんでした。ダイアンも気に入ってくれた、デニムのジャケットが買って良かったです。

その後、夕食にお寿司を食べに行きました。カウンターで注文すると目の前で作ってくれるレストランでした。私は、外のテラスでサーモンとネギとクリームチーズと天かすとアボカドが入った巻き寿司を食べました。珍しい組み合わせですが、日本でも売って欲しいと思う位美味しかったです。前々から今海外でお寿司が人気だと聞いていたので、どのような味付けでどんなふう売られているのか気になっていたのが、良い体験ができたと思います。そこで研修生の吉岡さんと偶然会い、吉岡さんのホストファミリーと一緒に夕食を食べました。吉岡さんのホストブラザーのスカイラーとホストシスターのインディゴとノエルと話したり、遊んだりいい時間を過ごしました。ノエルはやんちゃ盛りで、私はすぐに疲れてしまいましたが、小さい子どもは世界共通でかわいいと思いました。またそこで初めてダイアンの娘である、ホストシスターのベイリーと会うことができました。ベイリーはボーイフレンドとその彼の犬と一緒に来ていました。ペット同伴可能なお店だったので、たくさんの方が犬を連れて来ていました。私は犬が大好きで、柴犬を飼っているので、写真を見せると喜んでくれました。アメリカでは柴犬はとても珍しいそうです。今日初対面の人が多かったけれど、みなさんととてもフレンドリーで本当にいい人たちばかりだな、と思った1日でした。



アメリカのお寿司

## 7月23日(水)



人生初のセグウェイ体験

今日は昨年度の親善研修生のケーシーとティエンの案内によるセグウェイでの市内観光。セント・ピーターズバーグ市役所のキムさんも一緒でした。セグウェイに乗るのは初めてで、操作に慣れるのに時間が掛かりましたが、セグウェイのスピードは結構ゆっくりだったので、しっかりと景色を見ることができました。本当に砂浜が綺麗で、真っ白でサラサラの砂は日本のものとは違って、早く海に行きたい気持ちが高まりました。

その後、私達はケーシー、ティエンと一緒に昼ご飯を食べに行きました。その時、昨年2人が高松へ来た時の事を色々話してくれました。1年経った今でも色濃く覚えて、2人は高校にエアコンが付いていなかったことに驚いたと言っていました。セント・ピーターズバーグ市にある殆どの学校には冷房が入っているそうです。

昼食後は南フロリダ大学のセント・ピーターズバーグキャンパスに行きました。大学構内には、様々な魚がいる水槽や、学生が集えるテレビのあるフロアがありました。床や椅子もカラフルで日本の大学より明るいイメージを受けました。その後はケーシーのお父さんの働く、タンパベイタイムズというセント・ピーターズバーグ市で最も支持されている新聞社へ見学に行きました。社内はとても静かで整頓されていました。またとても広く、歴史的なイベントが起



真っ白なビーチ



タンパベイ・タイムズ見学

建物自体が芸術作品で、今までに見たことのないような形をしていました。三角形のガラスをつなぎ合わせて丸みを帯びたデザインを作っていました。この三角形のガラスは一枚一枚大きさが違うらしく、特注して作られたとの事、大きさが違うことによってハリケーン等の強風に耐える効果があるそうです。今日は様々な貴重な経験ができ、充実した1日となりました。

こった日の新聞を飾っている所やラジオ収録できるスタジオもありました。新聞社見学が終わると、ケーシーの通うレイクウッド高校に向かいました。校内をケーシーが案内してくれました。一番日本と違うと思ったのは、グラウンドに観客席があったことです。アメリカンフットボールが一番人気だそうです。日本の高校に比べて敷地がとても広く、1階建てで驚きました。その後、スペイン出身の画家、サルバドール・ダリの作品を展示しているダリ美術館へ行きました。



ダリ美術館

## 7月24日(木)



インディゴとノエルとボーリング場で

今日は、この研修の大きな目的である、市長・市議会表敬の日です。最初に、セント・ピーターズバーグ市役所内にあるスタジオでセント・ピーターズバーグ市と高松市を紹介するコマーシャル撮影をしました。ミスを何度かしてしまい、苦戦しましたが、無事に終わって良かったです。その後、市長表敬に行きました。市長さんから今後のセント・ピーターズバーグ市と高松市の関係の在り方について、また市長さんのご家族の話をお聞きしました。とても笑顔が素敵で、優しい方でした。その後、私達は市議会で香川県、高松市についての紹介を英語で発表しました。私は讃岐漆芸と希少糖について発表しました。事前研修で学んだことを基にそれぞれの良さや特徴を伝えられたと思います。市議会で発表するのは緊張したけれど、成功して良かったです。

今日は、この研修の大きな目的である、市長・市議会表敬の日です。最初に、セント・ピーターズバーグ市役所内にあるスタジオでセント・ピーターズバーグ市と高松市を紹介するコマーシャル撮影をしました。ミスを何度かしてしまい、苦戦しましたが、無事に終わって良かったです。その後、市長表敬に行きました。市長さんから今後のセント・ピーターズバーグ市と高松市の関係の在り方について、また市長さんのご家族の話をお聞きしました。とても笑顔が素敵で、優しい方でした。その後、私達は市議会で香川県、高松市についての紹介を英語で発表しました。私は讃岐漆芸と希少糖について発表しました。事前研修で学んだことを基にそれぞれの良さや特徴を伝えられたと思います。市議会で発表するのは緊張したけれど、成功して良かったです。

今日私は予定より早く2週目のホームステイ先に行くことになっていたの、荷物をホストファミリーに預けた後、ケーシーの叔母さんの家を訪問し、日本料理をご馳走になりました。ケーシーの叔母さんは餃子や蕎麦、とんかつ等の日本料理を作ってくれました。全て美味しかったのですが、アメリカ風にアレンジされていて面白かったです。

その後、ホストファミリーや研修生のみんなでボーリングに行きました。みなさんと交流が持てたいいい機会になりました。ボーリングが終わると、2週目のホストファミリーのお宅へ向かいました。ホストマザーのチカさんは日本人、ホストファーザーのジョゼはネイティブアメリカンの方で、ホストシスターのマヤは今年度の親善派遣研修生として高松市に来ており、こ



市長表敬にて

ちらに来る前にすでに歓迎会や交流会等で会っていました。また妹のミカも日本語や日本文化を良く知っていました。家に着くと、疲れていたため、すぐに寝てしまいました。

## 7月25日(金)

今日は、朝から雨と雷の天気。こちらではスコールのような雨がよく降ります。雷の音も光も凄まじく、よく鳴っていました。そんな大雨の中、17歳になったばかりのマヤの運転で、朝食を食べに行きました。セント・ピーターズバーグ市では、親の許可があれば、15歳から車の免許が取れるそうです。同世代でも日本より大人として扱われるのだなと思いました。高校生で自分の車を持っていて、いつでも好きな所へ行けることはとても羨ましく思いました。レストランに着き、私は、典型的なアメリカの朝食を食べ



友達と飛行場見学

ました。フレンチトーストとスクランブルエッグとソーセージのセットです。しかし、ソーセージと言って出されたのは、一見ハンバーグのようでしたが、少し辛くて美味しかったです。



アメリカの典型的な朝食

その後、サマーキャンプに参加しました。最初は泊まり掛けの内容かと思っていましたが、実際は色々なアクティビティーをみんなと一緒に楽しむといった感じでした。キャンプに来ていたのは、私よりも年下の子ばかりで、私が一番年長でした。日本のアメをプレゼントするとみんな喜んでくれてよかったです。セスナ機を見に行ったり、野球をしたり、映画を見たりしました。みんな日本人の私に興味津々で

した。ジャッキー・チェンの映画をキャンプ施設内の部屋で観ていた時、小さな女の子から「あなたは日本語と中国語が話せるの？」と聞かれ、彼らからみるとアジア圏の人はみんな顔が同じ様に見えるのかなと思いました。飛行場見学では、今日は話を聞くだけで、セスナ機には乗れませんでした。後日研修で体験できる事になっていたのも、さらに楽しみになりました。みんな優しく、たくさんの現地の子供達と関わる良い機会となりました。

夜は、メジャーリーグの試合を見に行きました。トロピカーナフィールドは今まで見てきた球場の中で一番大きかったです。冷房の掛かった室内で野球観戦ができることに驚き、これがメジャーリーグかと感動しました。タンパベイ・レイズ対レッドソックスの試合で、10代20代くらいの若い人が多く来ていて驚きました。みんな叫んだり、応援歌を熱唱したりと、日本とはテンションの高さが違いました。試合は、途中までは劣勢でしたが、最終的には大逆転となりタンパベイ・レイズが勝ちました。すごくいい試合を見ることができ、本当に楽しい一日になりました。



初大リーグ観戦

## 7月26日(土)

今日は、ウィキワチスプリングという天然の湧水が湧く州立公園へ行きました。そこでは、人魚の



初めて食べたワニ

レストランに着き、頼んだ料理は全て揚げ物で、チキン、ポテト、チーズ、イカ、そしてワニのフライでした。ワニの肉を食べるのは、もちろん人生初のことでドキドキしました。味は、白身魚と鳥の中間といった感じで、食感は少し固かったです。今までに食べたことのないような感じでしたが、とても美味しかったです。健康面はさておいて、アメリカンな食事ができて楽しかったです。

その後タンパベイ・ローディーズのサッカーの試合を見に行きました。到着した時には既に試合が半分程終わっていました。来ていた観客の人達は、チームのユニフォームやネックレスを



美しい泉をバックに



念願のチーム応援グッズをつけて

身に付けたりと何かしらの応援グッズを持って大きな声で歌って応援していて、とても盛り上がっていました。試合は、残念ながらタンパベイ・ローディーズが負けてしまったけれど、いろいろなサッカー選手の方と握手や写真が撮れて嬉しかったです。そこで、タンパベイ・ローディーズに所属している日本人選手の山田選手とも話しました。明日のプールパーティーにも参加されるとの事、また会うのが楽しみです。

## 7月27日(日)

今日は、朝からホストファミリーと一緒にフリーマーケットに行きました。大規模なフリーマーケットで、毎週末開かれているそうです。新鮮なフルーツや野菜、ジュースや衣類等が売られていました。私はサングラスが欲しかったので、探していると、幸運な事に1ドルで売っていて、それを買うことができました。その帰りに、昼食にピザを食べに行きました。日本ではありえないくらいのサイズのピザが来て、本当に驚きました。机の縦の長さと同じくらいで直径



アメリカンサイズのピザ

50 cm程ありました。でもそれは、アメリカでは普通のサイズだそうです。その後、お土産を買いにスーパーマーケットに行きました。アメリカでは、シリアルが朝食としてすごく人気で、本当にたくさんの種類のシリアルがあり、陳列棚の一行すべてに売られていました。そのサイズも日本のシリアルの箱の2倍から3倍ほどの大きさでした。昼食のピザに然り、アメリカのサイズ感に驚かされました。

そして、午後からは、久保君のホストファミリーの家でプールパーティーが開かれました。このパー

ティーで2週目のホストファミリーと交代することになっていました。各家庭から食べ物を持ち寄るスタイルのパーティーだったので、色々なものを食べることができました。プールは、普通の家庭とは思えないような大きさと、深さも2m以上はありました。昨日会ったタンパベイ・ローディーズの山田選手も来ていて、アメリカで数年間住んでみて思ったことや、私達の将来の進路のことについてのアドバイス等、色々お話しして頂きました。久保君のホストシスターのケンジーが本当に元気いっぱい、一緒に遊んでいてとても楽しかったです。ケンジーは別れ際も、「バーイ」と何度も言って、最後に抱きついてくれました。



子供達と遊んだプールパーティー

## 7月28日(月)



初めて食べたタコス

今日は、ホストシスターのマヤと買い物に出掛けました。アメリカは、日本と比べて、服が少し安いと感じたし、マヤ曰く、日本よりセールが多いそうです。さらに、日本ではあまりないような割引率で、今日マヤは、16ドルのサングラスをなんと50セントで手に入れていました。帰りの車の中で、マヤからブラックフライデーと呼ばれる、毎年11月の第4木曜日の感謝祭の翌日に行われるセールがあると聞きました。商品が50～70%引きになり、怪我人が出るほど賑わうそうです。ブラックフライデーと呼ばれているのは、その日の売上げが黒字になるからだそうです。

帰宅してから、タコスを作りました。タコスを食べるのは初めてでした。生地は柔らかいトルティーアとパリパリとした食感のタコシェルがありました。(写真はタコシェル)手巻き寿司のような感じで自分が好きな具材を好きなだけ入れて食べます。具材はスパイシーなそばろ肉とトマトやレタスの野菜、チーズなどでした。とても美味しいと言うとホストマザーが、お土産としてタコスの生地やお肉を味付けする粉などをくれて嬉しかったです。早く家に帰って家族に作ってあげたいと思いました。

## 7月29日(火)

今日は、セント・ピーターズバーグカレッジに行きました。すごく設備が整っていて、校舎は新しく、廊下にも冷房が掛かっ  
ていてプラネタリウムまでありました。他にも音楽プログラムの授業で使う、部屋がいくつかあり、電子ピアノが20台位パソコンとセットで置かれてありました。他にも色々な種類のギターや楽器があり、レコーディングをする部屋までありました。音楽が好きな私にとっては心躍る環境でした。その後、セント・



セント・ピーターズバーグカレッジ構内にて

り、隣接する高校の生徒から学校生活について話を聞いたりすることができました。やはり姉妹都市





陶芸に挑戦

の関係については、実際にお互いの市へ行くのが交流関係を築く一番良い方法だと話し合いました。実際に現地へ行くと、姉妹都市という関係をより身近に感じることができる、というのは今までの研修生全員に共通する考えだと思います。また、より多くの人がこの関係について知る事も重要だと思いました。

その後、モレアンアーツセンターに陶芸の体験をしに行きました。2年前、高松に親善派遣研修生として来ていたソロモンも参加していました。ソロモンはとても日本語が上手で、分からない英語があると日本語で教えてくれる程でした。ここではプロの陶芸家の方が作品を制作しているところを見学させていただきました。本当にマジックを見ているような感じで感動しました。セント・ピーターズバーグ市には、沢山の野生のリスがいたので、私はリスを作る事にしました。苦戦しただけに焼き上がりが楽しみです。

## 7月30日(水)

今日は、セスナ機に乗って、セント・ピーターズバーグ市の景色を上空から眺めました。操縦して下さったのはミサさんという日本人の方でした。この飛行場は、先日サマーキャンプで見学に行ったところで、前はセスナ機を見学しただけだったので、期待は高まっていました。上空から見たセント・ピーターズバーグ市は、本当に1つも山がなく、ずっと平地が続いていました。そして、周りが海に囲まれていて、セント・ピーターズバーグ市は、空の上から見ても美しい町でした。



真っ平なセント・ピーターズバーグ



小児病院にて

その後、最新の設備が整っている小児病院に行きました。病院内はとても広くて、子供が来ても怖がらないような工夫がたくさん凝らされていて、歩くだけで楽しかったです。赤ちゃんの手術シミュレーションをする部屋や、入院する部屋等を見学させていただきました。入院している子供達が映画やアニメを観られるように個室部屋にはテレビが備えられていました。見学後は今年度セント・ピーターズバーグ市派遣親善研修生のマラックのアルバイト先であるスーパーマーケットを見学しました。スーパーマーケットでは、ケーキを作ったり、魚をさばいたりするところも見学できました。店員さんしか入れないような場所に行けて、貴重な経験ができました。ケーキやお菓子はとても鮮やかなものばかりで、アメリカらしいなと思いました。

その後、セント・ピーターズバーグ市の歴史博物館に行きました。ネイティブアメリカンの歴史や野球選手についてのフロアなどがありました。野球選手についてのフロアには様々な野球ボールが展示されていました。その保有数は世界一で、ギネスにも認定されているそうです。中にはオバマ大統領や、黒人初のメジャーリーガーであるジャッキー・ロビンソンのサインが書かれたボールもありました。また、ネイティブアメリカンの歴史を紹介するフロアでは、本物のミイラなども置いてあり、

驚きました。

その夜、私は初めて海に泳ぎに行きました。訪れたビーチはとても夕焼けが美しく、おすすめのビーチなのだそうです。海に入ると、水がお湯のように暖かくて気持ちよかったです。日没の時間帯はサメのご飯の時間帯でもあるそうで、誰も海には入らず、沈む夕日を見つめていました。夕日は、紫、赤、黄色、黄緑、空色の順にグラデーションが掛かっていて、本当に美しかったです。この景色を、絶対に忘れないでおこうと思いました。ホストマザーのチカさんも、「今日の夕日は特別綺麗だったと思う。」と言ってくれて嬉しかったです。



美しかったサンセット

## 7月31日(木)



チフリ美術館にて

今日は、朝から街の観光に行きました。ホストファーザーとマザーは仕事に出掛けていて、ミカはサマーキャンプに行っていたので、マヤと2人で観光しました。今日は、1週目のホストファミリーのダイアンの所へ戻る予定の為、マヤの家族と一緒にいる最後の日でした。すごく名残惜しく、朝からマヤと私はテンションが低くなっていました。そんな中、最初に訪れたのはチフリ美術館。チフリ美術館は、とても有名なガラス工芸家のデイル・チフリによって作られたガラスの作品をいくつも展示している美術館でした。全てガラスで作られたシャンデリアや、きれいなガラス玉がありました。1億円を超えるような作品がガラスなどの仕切りもなくそのまま置かれており、歩くだけで怖くてドキドキしました。ガラスばかりの世界は本当に幻想的でした。

その後、サマーキャンプに行っていたミカを迎えに行き、3人でダウンタウンへ行きました。1週目のホストマザーのダイアンと行ったジェラートのおいしいお店に行きたくなり、そこへ行きました。2人は初めてらしく、ジェラートを食べると好評で、紹介してくれてありがとうと言われて嬉しかったです。

一旦、ミカを家に送った後、交流会が開かれるサンケンガーデンへ行きました。サンケンガーデンは植物園で、自然に囲まれ、オウムやフラミンゴを飼育していました。初めてみる植物も多く見ることができました。喋るオウムのミンディは「ハイ、ベイビー？」というのが口癖でとても



サンケンガーデン訪問

もかわいかったです。みんなで「こんにちは」という言葉を覚えてもらうべく、頑張って教えていました。3分程「こんにちは」を連呼していると、段々言えるようになってきて、頭がいいなと感心しました。

その後、マラックの家でティーンエイジャーパーティをしました。親善研修生やホストファミリー、マラックの友達のアレックスとジョイ、セント・ピーターズバーグ市から招へい教師として1年、高松市で英語講師をされていたセイジさんも参加していました。



アレックスとジョイ

みんなでカラオケをしたり、ゲームをしたりと、とても楽しかったです。マヤが慌てた様子で「今夜も私の家で泊まることになったよ。」と伝えてきて、とても驚きました。私は始め聞き間違いだと思いましたが1週目のホストマザーのダイアンが体調を崩してしまったようで、変更になってしまいました。私は、心配になり、複雑な気持ちでした。けれど、残りの日数をマヤの家に滞在できることは嬉しかったです。

## 8月1日(金)

今日は、6時位に起きて、ホストファーザーと一緒にベーグルを買いに行きました。7時前だったのに、ベーグルのお店もスーパーマーケットも開店していて、驚きました。ベーグルは以前にも食べた事はありませんでしたが、このベーグルはこれまでの人生で1番美味しかったです。

マヤとミカが好きなスケートに行こうと言う話になり、私は氷のリンクを想像していましたが、行ったのは、ローラースケート場でした。私はローラースケートは初めてで、なかなかコツを掴めず、ずっと小さい子供達が利用する場所で練習していました。いつもは使わないような筋肉を使ったので、すぐに体が痛くなり、1時間くらいでやめてしまいました。その後で、私達研修生とホストファミリーとでシャッフルボードというスポーツをしました。ルールはコートの反対側の得点の書かれた枠に向かってディスク(円盤のようなもの)を押し出して得点を競うシンプルなゲームで、アイスホッケーに似ているように思えました。30分程シャッフルボードと楽しんだ後、子供達と遊びました。



スーパーマーケットのフルーツ売り場



リンがしてくれたネイル

その後、マヤの1番の親友というリンの家にネイルをしに行きました。リンのお父さんは、ネイルサロンを営んでいるようで、マニキュアをたくさん持っていました。リンは丁寧に塗ってくれたので、夏休みの間はずっとつけていたいなと思いました。

## 8月2日(土)

今日は朝から、テレビで以前見たことがあったトランポリン体験ができる所があると聞いたので、そこに行きましたが、日本の両親の了承が必要だったので、入れませんでした。トランポリンは、今日日本の両親に了承を得ることができたなら明日行こうという話になりました。

そして、その後クリアウォーター海洋水族館へジョゼ、マヤ、ミカの4人で行きました。そこには、ウィンターという尾ひれのないイルカがいました。漁獲網に引っ掛かって死にかけていたウィンターをこの水族館が保護したそうです。ウィンターの物語は2011年に映画化されており、館内でも公開されていました。今は、飼育員の方の懸命なサポートがあり、しっぽがなくても泳げるまでになったそうですが、少しかわい



ウィンター

そうでした。水族館内には、色々な魚に触ることのできる所があり、私はエイに触りました。とてもツルツルしていて気持ち良かったです。その後、いろいろなキャンプの道具を売っているお店に行きました。山登りの時のおやつとして、フリーズドライのアイスクリームがあり驚きました。私はそのようなを見るのは初めてで、気になり買ってしまいました。早く食べてみたいです。



エイにタッチ

## 8月3日(日)

日本にいる両親に了承を得ることができたので、昨日体験できなかったトランポリンに行きました。そこは、壁も床もトランポリンで、できていて、すごく体が軽く感じて楽しかったです。日本にはまだない施設で、今アメリカではとても人気があるそうです。さらに、そこでは、トランポリンの上でドッジボールをする場所があり、私もやってみました。私1人対大人4人で勝負して勝つことができ本当に嬉しかったです。



楽しかったトランポリン

その後、1週目のホストファミリーの家にお別れの挨拶と荷物を取りに行きました。ホストマザーのダイアンはまだ熱があるそうで、とても疲れているようでした。私に「もうここはあなたの家でもあるからいつでも来てね。」と言われて、私もまた来たいと伝えました。ダイアンは私がお土産として渡した浴衣を着たうさぎの人形を持って、「これを見る度に樹里のことを思い出すわね。」と言ってくれたので本当に嬉しかったです。夜は、明日の帰る支度をしました。ホストマザーのチカが荷物を詰めるのが凄く上手くて助かりました。明日は、みんなとお別れの日…。ホストファミリーに、絶対にまたセント・ピーターズバーグ市に戻ってくる、という事を約束し、本当にベリオス家で滞在することができて幸せだったと感謝の言葉を伝えてから寝床へ向かいまいました。帰る前から、次に来る時のことを想像ばかりしていました。

## 8月4日(月)

今日は朝の4時に起き、タンパ空港へ向かいました。ついに帰国する日になってしまいました。まだ帰りたくない、まだ別れたくない、と何度も思いましたが、涙はでませんでした。きっとまた帰ってくるという思いが強かったからだと思います。マヤには、「樹里はもう私達の家族だし、絶対に帰って来ないといけない。」と言われて嬉しかったし、そうするつもりです。今回の研修で出会った全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

この経験を活かして、これからもっと国際交流の活動を積極的にしていきたいです。

## 感想文



香川県立高松西高等学校 2年  
川井 樹里

### 将来の糧となった2週間

今回の研修では、セント・ピーターズバーグと高松との「違い」より「同じ」点が色濃く見つけられました。肌の色や、育った国が違っていると、全く違った感覚を持っているのかな…と私は思っていました。2週間という期間、セント・ピーターズバーグ市に滞在しているうちに、盛り上がる話や笑うところも殆ど同じな事に気がつきました。「違う国の人」である以前に、「同じ人間」なんだ、と思いました。実際行ってみると、私が想像していたこととは全く違うことばかりで、まさに「百聞は一見に如かず」でした。

また、現地でのコミュニケーションは全て英語ということで、セント・ピーターズバーグ市に行く前からずっと気掛かりでした。やはり、現地に行ってみても自分の英語能力の低さにショックを受けることは毎日でした。言いたいことは、山のようにあるのに、伝えられることはその何割かだけ、というのが今の私の現状である事が分かりました。

でも、この経験があつてこそ、英語が勉強の教科ではなく、コミュニケーションをとる為に必須の言語であるということをやっと心の底から確かめられたような気がします。

将来、もっと英語を勉強して、もう一度セント・ピーターズバーグ市に行きたいと思います。また、アメリカだけではなく、様々な国へ行き、沢山の友達を作りたいです。

今回の研修でできた、新しい友達とは、これからもずっと良い関係を持ち続けて一生の友となればと思います。

今回の研修では、今までより更に、セント・ピーターズバーグ市と高松市が姉妹都市であるということが身近に感じられました。やはり、姉妹都市という関係だけでなく、実際に交流を深めることが肝心だと思いました。

この素晴らしい友好関係は、きっとこれからもずっと続いていくと信じています。

# 親善研修生 報告書 Ⅱ



## 日誌・活動記録

香川県立高松高等学校 2年 久保 一毅

### 7月20日(日)

家族や旅行会社、高松市役所、高松市国際交流協会の方に笑顔で見送られ、高松空港の出発ゲートにやってきた。これでうどんとはしばしの別れになる。いよいよだ。飛行機が離陸して高松の街を空から眺めた時、改めて自分は高松市の代表なんだという責任を強く感じた。また、今回の研修生で唯一の男子だという責任も自分自身感じており、3人の中で一番スーツケースが小さくて軽い物を持っていた僕だったが、責任だけは誰よりも大きく、そして重いものを持っていたような気がする。今日は成田で一泊し、明日日本を発つ予定だ。不安と期待で早寝はできなかったが、この日はうどんの夢を見た。

### 7月21日(月)

ホテルの朝食バイキングではしっかりと和食を選択し、成田空港に向かった。空港の外貨両替にてアメリカドル紙幣を受け取った時、アメリカに行くという実感が、自分の中ではっきりしたものになり、ワクワクとした気持ちがどんどん高くなってきた。そしてその気持ちに輪をかけるように、飛行機待ちの時に手に取った雑誌の運勢占いの記事には「てんびん座 旅行が吉」と書かれている。幸先のいいスタートだと、ふわふわとした軽い気持ちでいた



みなさんのお出迎え

僕だが、自分達の乗るシカゴ行の飛行機が機体整備のため3時間も出発時間が遅れてしまったアクシデントで、油断は大敵だと自分の気持ちが改めて引き締められた。経由先のシカゴに到着し、自由時間が多くあった僕たちは大きなオヘア空港内を見て回ることにした。見るもの、聞くものが全て英語だ。ハンバーガーを英語でオーダーし、ドルで支払う。簡単な英語ではあったのだが、やはり注文通りの品が来て通じているのが分かるとうごくうれしい。夕方ごろにオヘア空港を発ち、2時間ほどのフライトでフロリダ州タンパ空港へ。

空港ではセント・ピーターズバーグ市役所のスタッフや現地連絡員の方、ホストファミリーが出迎えてくれた。1週目のホストマザーのキャサリンとホストブラザーのクリスが迎えに来てくれていた。家へと向かう車中で晩御飯には何が食べたいか?と聞かれたので何かアメリカらしいものがないかと伝えた。いろいろなことがあって疲れた怒涛の一日は味噌汁とご飯で始まり、大きな肉がたっぷり挟まれているタコスで締めくくられた。

### 7月22日(火)

朝は少し早起きをしたつもりであったが、ホストマザーのキャサリンは既に起きて朝ごはんの支度

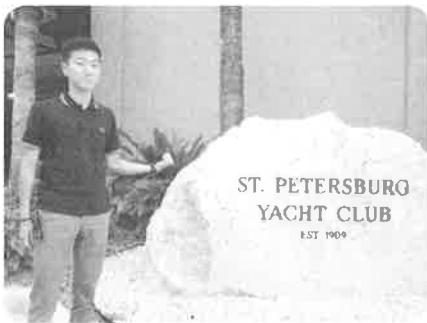


をしてきていた。日本もアメリカも母親の朝は早い。キャサリンはものすごく優しいホストマザーで、陶芸センターを営んでいる。そしてホストブラザーのクリスはこの秋から名門リッチモンド大学に通う予定の18歳だ。クリスはまだ寝ているらしい。日本もアメリカも若者は朝に弱い。やっと3人がそろい、トーストやフルーツなど日本とあまり変わらない朝食を取った後、ショッピングにつれて行ってくれることになった。



Bubba Gump でクリスと

家にはキャサリンのオープンカーとクリスの車と2台の車がある。僕たちはオープンカーに乗り込みショッピングモールへと走った。最初は控えめに風に髪をなびかせつつも少し恥じらいを感じていた僕だが、街中には他にもオープンカーや、真っ赤、真黄色などの派手な車も多い。日本なら、特別な色や形にすると、色々と余計な詮索されることがあることを考慮してなのか、結局はそういった車は少ない気がする。アメリカではそのようなことは気にせず、自分がよいと感じる車を思い思いに買っているのだなと思った。



ヨットクラブの前で

着いた屋外ショッピングセンターは海に隣接され、常夏の雰囲気満点であった。さすがアメリカの避寒地として有名はセント・ピーターズバーグ市。僕は水着、サングラスなどをここで揃え、物欲は満たされた。次は食欲である。ここではせっかく海が臨めるのだからなにか海のものを食べようと、2人はエビ料理のチェーン店「Bubba Gump」に連れて行ってくれた。そう、あの有名な映画「フォレスト・ガンプ」に出てくるエビ会社のレストランだ。店内はいたるところで使用された衣装が飾ってあり、主人公が劇中で使用する卓球のラケットを模したメニュー表など映画にちなんだ凝った内装が施されていて、この映画が大好きな僕にはたまらない。ここで僕は何を頼もうか迷ったので、店の一番人気のサンドウィッチを注文した。

午後からは、キャサリンのパートナーのエドワードと合流し、ディナーは、セント・ピーターズバーグのヨットクラブに行くこととなった。僕の隠れたホストファーザーである。セント・ピーターズバーグのヨットクラブは歴史も長いようで、戦前からあるという大きな建物内の長い廊下には世界各国のヨットクラブの旗がずらりと並んでいる。一室にはヨットの歴史を展示している部屋もあり、高校でヨット部に所属する僕にとってはすごく興味深いものだった。クラブのレストランでも何を頼もうか迷ったので、店員さんがおススメしてくれるステーキを注文した。ありきたりだが、この方法が一番間違いない。



歴史のあるヨットクラブ

## 7月23日(水)

今、僕の胃袋はもうアメリカの食べ物だけになっていると思う。そう考えると早くも日本食シクになってしまった。こちらの食べ物は極端に辛い、甘い。飲み物も甘い飲み物か、水しかない。まあまだ始まったばかりだ、徐々に慣れていくとしよう。



**セグウェイ体験**

今日はセント・ピーターズバーグ市がアクティビティーを行ってくれる日なので、朝から研修生が全員集合した。久しぶり（といっても一日ぶりだが）に耳から日本語を聞き、口から日本語を話す機会であったので、日本語を使用しているという感覚が楽しくてしかたがなかった。朝一番のプログラムは、昨年度のセント・ピーターズバーグ市からの親善研修生、ティエンとケーシーの案内によるセグウェイでの市内観光だ。セグウェイは思っていたよりも乗りやすく、最初は操作にばかり注意を払ってぎこちない運転だったが、後半のほうになると自分の体の一部にでもなったように運転できるようになった為、操作に余裕ができて街の景観が楽しめた。改めて思うのはセント・ピーターズバーグ市は美しい街であるということ。主に海辺のサイドウォークを走るコースで、温かい日差しの中で心地よい海風がカモメの鳴き声を運んでくるのもものすごく心地良く、寝てしまいたいようになったほどだ。「海風」を英語で表現する時にシーブリーズと僕は無意識に表現したのだが、心の中で、あの某制汗剤はなんて素敵な名前が付いているのだろうだろうと思った。セグウェイのインストラクターのおじさんはジョーク好きで常にジョークを言っでは自分で笑っている。日本のおじさんもアメリカのおじさんも冗談好きなところは全然変わらない、と思うと急に距離が一気に縮まった気がした。



**セグウェイですいすい**

お昼からは、ケーシーのお父さんが働いているという新聞社、「Tampa Bay Times」の見学だ。このタンパベイ・タイムズはフロリダで一番シェアされている新聞社らしい。新聞印刷報道に与えられるアメリカで最も権威のある賞であるピューリッツァー賞を10回受賞されている。社内にはラジオスタジオも併設されていた。僕は日本の新聞社の見学も行ったことがあるのだが、職場の雰囲気はこちら



**ケーシーのお父さんと**

らの新聞社のほうが柔らかな印象を受けた。一人一人のオフィスデスクの上にはおもちゃが置いてあったり、自分の子供が描いてくれた絵を飾っている人もいて、楽しそうだ。どちらの雰囲気のほうが良い会社なのかとは一概には言えないけれど、同じ仕事なら楽しいほうが良いと思う。この後、南フロリダ大学へ見学に行った。あまり時間がなく駆け足での訪問だったが、大学構内はきれいで、たくさんの国籍の学生がいた。特にアジア人が多くて驚いた。

さあ次はダリ美術館だ。少し遠くからでもものすごく目立つガラスのドームのような外観のダリ美術館。入り口には、各国の言葉でいらっしやいませという文字が書かれていて、もちろん日本語も発見。母国語を見ると、何故かホッとす。展示室では、現地でいろいろなサポートをしてくださっている現地連絡員で日本人のプランタムラさんのガイドを聞きながら、ダリの絵の裏にある心情、メッセージを考えていた。教科書やインターネットでも良く目にするダリの絵も展示してあったが、やはり実物は迫力が違う。言葉では言い表せないような圧倒感がある。高松に帰っても、今母が働いている高松市美術館に時々足を運んでみようと思ひそかに思った。

その日の夜、昼にティエンとケーシーが今晚みんなで映画を見に行かないかと誘ってくれていたの  
で、僕はホストブラザーのクリスとその2人と一緒に4人で映画を見に行くことにした。見たのは  
「22 Jump Street」というコメディで、やはり日本人の僕には難解なギャグもあったが、一緒に笑っ  
ている場面が重なると、今みんなと同じことを考えているんだなあという気がしてうれしくなった。

## 7月24日(木)

今日はセント・ピーターズバーグ市役所に訪問して、市  
長表敬、市議会表敬を行うという今回の任務で一番重要と  
いっても過言ではない日だ。久方ぶりの制服に腕を通し、  
胸にセント・ピーターズバーグ市のバッジをつけて市役所  
に向かった。市長さんは意外と若い方で、僕たち研修生と  
同じ世代の息子と娘がいるそうだ。高松市から預かってい  
た市長の親書、お土産である漆器の菓子器と高松市国際交  
流協会から預かってきた鬼瓦、奉公さんアメをお渡しする



市長表敬にて

と、喜んでいただき「50年間築いてきたこの関係を、これ  
からも続けて行こう。」とおっしゃっていたので市長表敬はおそらく大成功だろう。時間の関係であ  
まりお話しする事ができなかったが、終始笑顔でお話して下さった。秘書の方は特に奉公さんアメ



緊張したCM撮影

を気に入ってくれた様子で、「このデザインすごく可愛い」と言っ  
て下さっていた。次は市議会での高松市・香川県の紹介プレゼン  
テーションだ。こんなに大勢の前でするのは初めてで、少し  
緊張したが、今まで練習してきたかいもあり、研修生全員がき  
ちんとしたプレゼンテーションを行うことが出来た。僕は瀬戸  
内海国立公園 80 周年 & 瀬戸内国際芸術祭についてのプレゼン  
テーションを行ったのだが、高松市と同様に海を生かしたまち  
づくりを行っているセント・ピーターズバーグ市の方たちには  
好感触だったような気がする。それに、プレゼンテーションを聞いてくれた議員の皆さんが、僕の英  
語を褒めてくださったことは、これからの自分の英語に自信を与えてくれた。そのあとはみんなでコ  
マーシャル撮影だ。違う国のテレビで僕たちのコマーシャルが流れると思うとすごく不思議な感覚に  
なる。みんな緊張したが、間違いも出さず頑張れた。ちょっとの時間ではあったが、気分はセブリー  
ティーなひとときだった。

午後は市役所をあとにして、ケーシーが通っているというレイク  
ウッド高校の見学に行く。夏休みのため授業は行われていなかったの  
だが、スナック菓子を売る自動販売機、大きなフットボール場、ロッ  
カー等、アメリカの映画やドラマで見たような光景を目にした。学校の  
広さが日本の学校よりも圧倒的に広いと思った。のびのびとした環  
境で勉強ができそうでいいなと思った。そこからまた少し移動して



市議会でのプレゼンテーション

ケーシーの叔母さんの家へ行った。叔母さんは日本人とのハーフで僕たちに日本食を作ってく  
さいました。その10歳の息子のエイデンと僕はものすごく仲良くなり、ずっと一緒にサッカーなどをして

いた。やはり国は違えど小学生はみんな同じようで、自分の小学校時代を思い出せたような気がする。まさかアメリカで小学校時代のことを思い出すなんて思ってもいなく、興奮して帰宅した。多忙を極めた1日が終わってほっとした僕は、この日シャワーも浴びずにベッドに倒れこんだ。

## 7月25日(金)

昨日は疲れていたのだろう。着のみ着のままでお昼の11時ごろに目が覚めた。滞在3日目にして扱いにも完全になれたユニットバスでシャワーを浴び、1階にある食卓に降りてみるとキャサリンとエドワードがランチの用意をしてくれていた。メニューはチキンナゲットとフレンチフライとトルティーヤチップス。うーん何ともアメリカンだ。当初は食事にスナック菓子が出ることに驚きが隠せなかったが、今では胃袋も納得してくれている。

さて、今日はアメリカに来る前から一番楽しみにしていたタンパベイ・レイズ対ボストンレッドソックスのメジャーリーグ観戦だ。日本でも何回かは野球の試合を見に行ったことはあるが、何とんでも本場の野球である。楽しみだ。試合が行われるトロピカーナフィールドまでの道のりも、普通の日に通った時に比べ、両軍のキャップをかぶった人たちで溢れかえり異



白熱のレイズ

様な熱気を帯びている。少し早めに球場に着き、お祭りのようなオープニングセレモニーを見ているといきなりマーチが流れ始め、軍人と共に一人の女性が出てきた。国歌独唱だ。それまではわいわいがやがやとし、叫んでいた人達が嘘のように静かになり、満員に近い大きなスタジアムは、遠くにいるハトの羽音さえ聞こえるほどになっていた。観衆は全て起立し、右手を胸に当て、星条旗を見つめている。女性が曲の盛り上がる場面に差し掛かった時と国歌が終わった時の歓声は今まで聞いたこと



キャサリンとエドワード

もないようなすさまじい物で、スタジアム中の観客という観客が叫んでいた。この時、国歌で人はこんなにも一つになることができるのかと衝撃を受けたのを覚えている。僕たち日本人は、あまり国歌に対して叫んだり歓声を上げたりすることは少ない。君が代という曲の雰囲気や性質というのも関係しているとは思いますが、そもそも国歌というものに頼らなくても単一民族国家の僕たちは、無意識に一丸となれると思っているからではないだろうか。(あくまで僕の個人的意見だが) 人種のるつぼと言われ

るアメリカで、この国歌は様々な国民をうまく一つの束にすることができているんだなとふと思った。この日の試合のタンパベイ・レイズ側には日本人の選手は残念ながらいなかったが、ボストンレッドソックスには田澤選手という日本人の選手がピッチャーとして出場していた。もちろん僕たちはタンパベイ・レイズを応援していたが、田澤選手が投げているときは心の中で「行け行け田澤」と応援していた。この試合ではボストンレッドソックスが田澤選手によるミスで大敗を喫したので、喜んでいいのか悪いのか複雑な気持ちになったが、タンパベイ・レイズの勝利でピザの無料券が配られた。よしとしよう。

7月26日(土)

今日は朝からチフリー美術館というガラス彫刻の美術館に行った。この美術館は最近できたものらしく、ホストマザーのキャサリンもこの美術館を建てるためのお金を寄付しているらしい。ディル・チフリーの作品は本当に素晴らしかった。僕の特にお気に入りの作品は、色とりどり、形が様々なガラスを使って「庭」を表現した作品で、これは自然の庭の野性的な中にも何か規則性があるようなという感じが凄く良い。ガイドさん曰く、チフリーは日本にも大きなインスピレーションを受けているらしく、「ニイジマ・フロート」という、チフリーが新島に旅行したときに、浮き(ブイ)を見て作った作品や、「イケバナ」というその名の通り生け花を表現したシリーズもあった。本当に日本の美は世界に通じる、というか普遍的な美意識なのかなと改めて思う。



チフリー作「ガーデン(庭)」



出資者の名前にキャサリンが！

美術館の後はホストファミリーのエドワードが、小型船でタンパベイ(タンパ湾)を案内してくれた。セント・ピーターズバーグ市は比較的裕福な人達がたくさん住んでいる街だそうで、港には大きなクルーザーが所狭しと並んでおり、個人のための飛行場も見られる。しかし、当然裕福な人だけが住んでいるわけではない。大きなクルーザーが止まっている港に隣接している公園では、たくさんの家を持たない人たちが教会の配給する食糧に長蛇の列を作っていた。食べ物を待つ人々の列の上空を悠々とセスナ機が飛んでいくのを見ると、大きな貧富の差というのを痛感する。

この日の夜は地元サッカーチーム、タンパベイ・ローディーズの試合を応援しに行った。フェイスペイントをしたたくさんの観客が大きな太鼓を叩きながらお祭りのように叫び、応援していた。相手のチームにブーイングするのは好きではなかったが、みんな楽しそうにしていた。残念ながら試合には負けてしまったが、野球の時と同様、アメリカの陽気なのに合わせて叫びながら応援するのは、やはり楽しい。たくさんの思い出が作れたが、ホームステイはまだまだ前半戦も終了していない。これからが楽しみだ。



タンパベイ・ローディーズ試合観戦

7月27日(日)



たくさん見かけるリス

今日はホストファミリーが交代する日で午後からキャサリンの家でプールパーティーが行われる為、朝から僕たちは料理を作るなどの準備をしていた。ここでは屋外でいろいろと作業していると、たくさんのリスとトカゲを見ることができる。最初はリスが市街地にたくさん生息していることに驚いたが、今ではもう日本でハトを見るのと同じような感覚だ。お昼過ぎ、家に続々と各ホストファミリーが集まってくる。今回のパーティーには昨日試合を見に行ったタンパベイ・ローディーズで活躍し

ている日本人の山田選手も来てくれており、いろいろな話をした。特に、アメリカの高校生と日本の高校生の持つ将来についての認識の違いの話は興味深く、自分もいろいろと将来を考えさせてくれるものになったと思う。山田選手曰く、日本の高校生は大学に行ってから将来の進路を決める人が多いけれど、アメリカの高校生は早い段階で自分の進路を決め、それに伴った大学に行く人が多いらしい。アメリカの高校生は常に自分の行先を考えているようだ。自分の将来を意識することは大事だと



プールパーティーで

感じた。プールで小さな子供たちと遊んだりしているうちに、この家を出なければいけない時間がせまっていた。この1週間はあっという間に過ぎて行ってしまった気がする。キャサリンとクリス、エドワードとまた会おうとハグして、次の家庭の車に乗り込んだ。あともう一回悲しい別れをしなければいけないと思うと辛い。

## 7月28日(月)



カイとケンジー

僕の2週目のホストファミリーは4人家族で、ITの仕事をしているルーマニア人のホストファーザーのビクター、ホストマザーのノエル、2人の元気なホストシスターのケンジー4才とホストブラザーのカイ3才だ。今朝は早くからカイとケンジーのサマースクールがあるようで、2人が耳元で叫ぶ声を目覚ましに、こちらに来てから一番早い6時の起床となった。朝ごはんはフルーツとシリアルで、一般的なアメリカの朝ごはんである。シリアルに牛乳ではなく

豆乳をかけているので、健康志向なのかな?と不思議に思い聞いてみると、家族全員がベジタリアンで動物性の物を全く口にしない、つまり牛乳さえ飲むことはしないそうだ。僕はこの1週間ヘルシーな生活がおくれそうな気がしてきた。

この日は吉岡さん、吉岡さんのホストファミリーと一緒に動物園とアメリカンフットボールのスタジアム見学に出かけた。シーズンオフのためアメリカンフットボールの試合は行われていなかったのだから出来なかったが、やはりアメリカで一番人気のスポーツのスタジアム。大きさのスケールが違う。なんと一番高い客席まで行くと街が一望できてしまうのだ。VIP ルームは試合が良く見える位置にあり、くつろげる



大きなスタジアム



中華料理屋にて

ソファやケータリングを置く場所まであった。選手のロッカールームの大きさに本当にびっくりした。日本人とアメフト選手の体格の違いに圧倒された。

そのあと吉岡さんのホストマザーお勧めの中華料理屋で昼食をとった。同じアジアの食事だったからだろうか、ほんのりとうまみが出てくる八宝菜はどこか懐かしい味がして、久しぶりに心の底からおいしいと感じられるものだった。しか

し、残念ながら晩御飯の豆腐ミートはアジアの懐かしさというよりも、病院食のようなものであった。

## 7月29日(火)

今日の午前中の研修はセント・ピーターズバーグカレッジの見学とこれまでの親善派遣研修生たちとの同世代ディスカッションだ。プラネタリウムや大型天体望遠鏡、レコーディング施設なども完備されているきれいなキャンパスだった。将来、海外進学にも興味がある僕にとって、海外のキャンパスの雰囲気やどんなものであるのかというのを肌で感じる事ができたのは、いい経験になったと思う。見学の後は、セント・ピーターズバーグ市が



セント・ピーターズバーグカレッジにて

撮影する中で行われた日米の同じ世代同士でのディスカッションだ。この体験ほど僕に衝撃を与えたものはこの滞在中、他にない。これは提示される政治や文化等、様々な話題についてのお互いの意見を出し合うという内容だ。「単一民族国家である日本と、移民国家であるアメリカはどちらのほうがいいと思うか？」などといったしばらく考え込んで困ってしまいそうな質問を、アメリカの高校生達はすらすらと答えてしまう。その意見が合っているのか間違えているのかどうかは別にして素直に自分自身の意見をしっかり持っていて、みんなの前で発言できるのはすごい。

日本の高校生も負けないぞと積極的に自分なりの意見をできるだけ明確に発表をしていったのだが、結局思うように自分が本当に思っていることを英語で表現することが難しい部分があり、もどかしい気分がディスカッションは終わった。このもどかしさがこれから自分自身の能力を高めていってくれることを信じる。



陶芸センター

午後は1週目のホストマザーのキャサリンの勤める陶芸センターでの陶芸体験だった。この施設はかつて駅だった場所を改装したらしく、ノスタルジックな雰囲気のある場所だった。陶器を焼いているからか施設内は蒸し暑い。日本の製法を参考にした窯を使用しているとの事だった。ここでは自分の好きなものを焼き物で作っていいということなので、僕はこちらに来て、その数の多さに驚いたリスを作ることにした。我ながらうまくできたと思う。ハグをして必ずまた会おうと誓った

キャサリンとは意外と早く約束を達成することが出来てしまった。

## 7月30日(水)

今朝は大きなヘッドセットにサングラスという映画に出てきそうな格好で1日が始まる。僕は運よく飛行機の助手席に座ることができ、ほんの少しの間ではあるが、飛行中に操縦かんも操作させてもらった。まるで気分はトム・クルーズだ。僕たちは飛行機で2、30分ほどかけてセント・ピーターズバーグ市を一周した。空から見下ろしたセント・ピーターズバーグの街はおもちゃのように小さくて、



気分は映画スター



手術シミュレーター

し、心臓も鼓動を打っている。またここは本当に病院なのか？というぐらい子供たちが楽しめるような工夫がたくさん施されている場所で、中庭にある大きな海賊船の遊具では、入院中の子供や友達のお見舞いに来た子などが一緒になって遊んでいた。まず子供の笑顔が一番！というような病院の雰囲気が凄く素敵だと思う。

お昼は今年度の親善研修生のマラックが働いているアメリカの一般的なスーパーマーケットにみんなで向かった。実のところ日本のスーパーマーケットとは劇的な違いがないのが事実だ。売っているものだけが違うといった感じで商品の配置等も日本のものと変わらない。僕はカラッとフライにされたスパイシーな海苔巻と、マカロニチーズを買って食べた。海苔



アメリカのスーパーマーケット

巻は全く違う形で認識されていたようだが、日本でいうカレーライスのように、本国で愛されているのならそういう形で食が伝わるのも悪くないと思う。もちろん事実を知った上でだが。

その後、セント・ピーターズバーグ歴史博物館へ行った。セント・ピーターズバーグ市は小さな市だが、高松市もそうである様に様々な歴史を経て今の市があるのだなと思った。ネイティブアメリカンの住んでいた所から始まり、今の都市になるまでの変遷が見られて良かった。



歴史博物館で説明を聞く僕たち

## 7月31日(木)

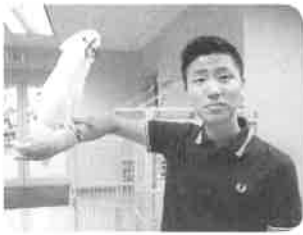
午前中は市民プールに行って遊んだ。海の見えるプールは最高だった。

午後のサンケンガーデンの見学では、高松市との姉妹都市交流の印である日本庭園があり、久々に見た日本風の建物に美しいなあと知らない間に一人つぶやいていた。僕が日本人だから見慣れた竹で作られた建物が美しいと感じるのかもしれない、ただ、異国の地で見ると日本文化は何か新鮮な物を見た時に感じる純粋な気持ちで美しいと思った。見学後はウェルカムパーティーが開かれた。以前高松へ来ていた親善派遣研修生が、高松での研修がきっかけで日本に対しての興味が湧き、大学で日本へ留学したと言っていた。自分も将来、この研修がきっかけに何かできるといいなと思う。



日本風の庭





喋るオウムミンディーと

僕はそのイメージを払拭する為にダンスを踊ったり、歌ったりして頑張った。その夜は、10代ならではの話を花を咲かせながら、盛り上がった夜になった。

見学の後、僕たちはティーンエイジャーパーティーのためマラックの家へ。パーティーはやっぱりこうでなくちゃ、と大量のジュースとスナック菓子、大音量の音楽と一緒にパーティーが始まる。みんな日本の男の子は恥ずかしがり屋やあまり自分を出さないイメージを持っていたようだが、



歴代研修生と一緒に

## 8月1日(金)

今日はビクターが、僕と吉岡さんをシーカヤッキングに連れて行ってくれた。僕は主にパドルボードというサーフボードに乗り、パドルを漕ぐようなものを行ったのだが、思った以上にバランスを取るのが難しく、何回か転倒しそうになってしまった。訪れたカヤッキングポイントは、マングローブが生い茂るジャングルのようなところで、運が良ければ、マナティーにも遭うことが出来るらしい。冗談好きのビクターが言っていたことなので、どうせ嘘だろうと軽く受け流しパドルボードをしばらく楽しんでいた。しかし、突然水面からプシュウと空気が漏れるような音がしたかと思うと、そこには体長が2メートルほどあるマナティーが水面から顔を出し、こちらを見ていた。何頭ものマナティーが水面から顔を出していた。この場所によく来るビクターもこんなことは初めてだと本当に驚いていて、ラッキーボーイだなと笑っていた。僕は意外とざらざらとしたマナティーを撫でながら、高松に帰ったら真っ先にこのことを友達に伝えようと思った。



チャイルドマグネット

その日の夜はシャッフルボードというカーリングのようなゲームをして楽しんだ。と言っても僕はシャッフルボード場に来ていた子供たちと横の広場で遊んでいただけなのだが。マグネットの様に子供達が僕に寄って来る様子を見た父母の皆さんに「チャイルド マグネット」というあだ名をつけられてしまった。

## 8月2日(土)

この日の午前中は、ケンジーとカイのお友達のお誕生日プールパーティーなるものについて行った。アメリカの子供のお誕生日会は盛大だ。庭にウォータースライダーのようなものも取り付けているようで、びっくりした。このパーティーでは子供たちのお父さんやお母さんにアメリカでの小さい子たちに使う言葉を少し教えてもらった。例えば、「トイレに行く」ことを小さい子たちには「go to party」と言うらしい。日本で大人が子供に車の事を「ブーブー」というような感覚なのかと思う。思いもよらない言葉の言い回しが面白いと思った。

パーティーから車で帰っていると、セント・ピーターズバーグの街中には、建物に大きく絵が描かれていたり、トンボの彫刻が電柱に付いていたり、偽物の自転車がアート作品として置いてあったりと、アートが瀬戸内国際芸術祭のようにたくさん溶け込んでいることに気がついた。や

はり高松市とセント・ピーターズバーグ市は似ている。

## 8月3日(日)

今日はいつもの様にカイとケンジーの「Ikki 起きて！」という叫び声で朝8時半ごろに目が覚めた。朝食を食べながら、もう明日のこの時間にはセント・ピーターズバーグ市に自分はいないんだなと思うと急に胸がいっぱいになる気持ちがしてきてしまった。意外と情にもろい僕は、帰国一日前に泣いてしまっは格好がつかないため、胸がいっぱいになる前に腹をいっぱいにしてやろうと最後まで好きになれなかった豆乳シリアルを2杯もお代わりした。



フリーマーケット

さて、今日の前定はホストマザーのノエルいわく「今まで見てきたのとは違うサイドのリアルなフロリダ」を見に行くということらしい。最初はみんなで車に乗って、郊外の大きなフリーマーケットに行った。フリーマーケットはお世辞にも清潔とは言えないような店が所狭しと並び、飛び交う店主の言語も英語、中国語、スペイン語が混在している。地元の人たちは、なんといつてもフリーマーケットは安いということが魅力でよく利用しているらしいが、商品の中には埃をか



寺院にあふれるタイの人々

ぶっているような年季の入ったものもあった。僕はここで友達の為にアメリカンコミックスとTシャツを買った。全部で10ドルもかからない。本当に安い。その次は現地のタイ仏教の寺院に行った。ここは本当にアメリカかどうか疑ってしまうほど多くのタイ人の方があふれ、談笑している。最後の一日だけで多くの「フロリダの違う一面」を見ることができた気がした、これでもまだまだ一端だとは思いますが、

より深くフロリダを知る事できたと思った。また、そういう事を知ることで外国人である僕が受け入れられているような感覚になった。その帰り、ノエルが「またケンジーとカイが大きくなったら、今度は日本の色々な面を見せてあげてね」と言っていた。

## 8月4日(月)

今日は朝の5時にはもう家を出なければならない。昨日はゆっくりとここセント・ピーターズバーグ市の思い出に浸っていたので一睡もできなかったが、良かったと思う。本当に色々なことがあった。一言では言い表せない。カイとケンジーが起きているときに家を出てしまうとおそろしく泣いてしまうので、最後にさよならは言えなかった。ノエルとは朝、家でハグをしてお別れした。しかしまた僕はここに戻ってくるだろうし、さよならじゃない。空港では吉岡さんのホストファミリーの子供達とは出発直前まで遊んでいたが、いざ出発となるとみんな泣いていて、僕もセント・ピーターズバーグ市に残りたいなと思ってしまった。空港で測った研修生で一番小さいスーツケースは行きの重さと変わらなかったが、きっと僕は誰よりもたくさんの重みのある経験を日本に持って帰っていると信じている。

## 感想文



香川県立高松高等学校 2年  
久保 一毅

### 気づいたこと

今回の研修で、同年代のアメリカ人と触れ合い、たくさんの大切なことに気付かされました。

まず、これからどんどん国際化していく中で、自分の意見をしっかり持つということの大切さです。具体的には現地での高校生同士のディスカッションで気づいたことで、あちらの高校生は必ずはっきりと Yes か No の意見を持ち、“Why?” が問われると、その意見が合っているかどうかは別にして日本の学生とは比べ物にならないほどきちんとした自分の言葉で皆説明できていました。移民国家であるアメリカには、言葉によるコミュニケーションを徹底的に行なうことで、相互を理解しようとする文化がしっかり根づいているためなのだと思います。

次に、共通点を知ることの大切さです。多くの人が海外に行く理由として、文化の違いを知るためだということがよく言われます。しかし今回の研修を通して、僕は文化などの表面上の違いがあることを意識することの大切さよりも、異国に住んでいる未知の友達との自分との共通点を見つけることの大げさを知ることができました。国籍や文化が違っていても僕と同じように感じるんだと思うことで初めて、今まで無意識のうちに引いてしまっていたような線を取っ払うことができ、本当の意味での友達になれるのではないだろうかと思いました。

2週間というものすごく短い期間ではあったかもしれないけれど、僕は本当の友達をたくさん作れたような気がします。

また、セント・ピーターズバーグ市の人々の温かさや、この親善派遣研修生事業のおかげで高松市の素晴らしさにも気付くことができました。今回、僕はすべての皆さんに言いたい感謝の言葉を上手く表すことができないので、率直な自分の言葉を使わせてください。

高松、セント・ピーターズバーグ、最高！！！！

# 親善研修生 報告書 Ⅲ



## 日誌・活動記録

高松第一高等学校2年 吉岡 花瑛

### 7月20日(日)

集合時間の5分前に高松空港に着いた。出発の準備が出来たのは、家を出る20分くらい前のことだった。空港に着くとすでに他の研修生の川井さんと久保君は来ていた。チェックインを済ませ、見送りに来てくれた両親と少し話した。出発式では事前研修で作成した現地でのプレゼンテーションを通して香川県や高松市の観光・文化・産業の魅力を伝え、セント・ピーターズバーグ市の良さもしっかり感じて、充実した2週間を過ごす抱負を語った。出発ロビーに移動し、いよいよお別れの時が来た。2週間後に帰国した時には少しでも両親に成長したなど思ってもらえるよう頑張りたいと思った。ロビーで搭乗時間まで待ち、そして飛行機に乗り込み、いよいよ成田へ出発した。飛行機の中では寝ていたので、あっという間に成田空港に到着した。スーツケースを受け取り、バスに乗って宿泊先のホテルに向かった。鍵をもらって部屋に入り、同室の川井さんと話していた時、自分の携帯の電源が入らなくなっていた。何回もつけようと試みたが一向に電源は入らず、不安な気持ちのまま布団に入りすぐに寝た。

### 7月21日(月)

川井さんの携帯の6時のアラームですぐに起き、そのまま出発の準備をした。少ししてから川井さんも起き、二人とも荷物を完璧に準備した。それから一旦朝食を食べに行った。しばらく食べられないであろう、鮭やごはんなど日本食を食べた。部屋に戻り、荷物を持って予定より早いバスに乗って成田空港に向かった。ターミナルに着いて、昨晚故障した携帯を修理するため、携帯会社の窓口へ行った。故障受付はしていないとの事だったが、係の方が電源を入り切りすると直った。すぐに親に連絡して、



やっとシカゴに着いて

私は安心を取り戻した。ターミナル内のガイドさんの所に行き、手続きを行った後、出発ロビーの入口に向かった。そこでガイドさんは勿論、高松市国際交流協会のスタッフの方ともお別れだ。本当に三人だけの旅の始まりだ。不安もあったが、ワクワクで胸がいっぱいだった。無事に出国審査を終え、中にある免税店をウィンドウショッピングした後、ゲートへ向かった。10時40分に搭乗、11時10分出発の予定だったが、ここで思わぬアクシデントが発生した。飛行機の機体整備のため14時の搭乗となったのだ。早くアメリカへ出発したい私は、落胆した。幸いにも出発前に代替の乗り継ぎの便も手配する事ができ、安心して出発する事ができた。久保君が連絡係になり、みんなのために動いてくれて助かった。結局14時15分の搭乗となり、いよいよ飛行機に乗り込んだ。私はとても眠かったため搭乗早々に眠った。機内食の時間に起こされたが眠く、あまりお腹も空いていなかったの、少し食べてまた眠った。どのくらい寝たのか分からないがすっきり目覚めた後、映画を2本観て、2回目の機内食を今度はしっかり食べた。

無事飛行機はシカゴに着陸し、三人とも疲れてはいたが、アメリカに着いてワクワクしていた。入国審査を済ませ、荷物のタグを付け替えてから再び荷物を預けて、出口を出た。日本人女性の現地乗り継ぎガイドさんに会い、空港建物の外に少し出て空気を吸い、モノレールで国内線のゲートへ向かった。ガイドさんとチェックインをする時にお別れした。ガイドさんから聞いていた通り、出発ロビーは広く、お店もたくさんあった。タンパ空港への待ち時間は4時間ほどあったので色々な所を回った。飛行機に乗り込んでから寝て起きた時には、到着5分前だった。フロリダの夜景を5分間堪能してからタンパ空港に着陸した。セント・ピーターズバーグ市役所のエリザベスさんとキムさんに会い、いよいよ1週目のホストファミリーの待つロビーへ向かった。ホストファミリーは、ビジュアルアーティストのホストマザーのジュールズと、長男のスカイラー、長女のインディゴに、次女のノエルの4人家族だった。夜遅かったが全員来てくれていた。一番にジュールズと挨拶をして、全員で集合写真を撮り、スーツケースを受け取りに行った。そこで他の研修生二人とはお別れした。スカイラーが私のスーツケースを運んでくれて、車に乗り家へ向かった。車の中では私がなぜこちらに研修生として来たいと思ったのか、滞在中にしてみたい事等の簡単な会話をした。家に着いてからは家の説明を受け、日本のお菓子や扇子等のお土産を渡した。お土産はどれも喜んでくれて嬉しかった。疲れていたの、そのまますぐに寝た。



ホストファミリーと対面

## 7月22日(火)



大きなマングローブ

アメリカで初めての朝を迎えた。朝食はスカイラーの作った卵焼きやトーストなどを食べた。身支度をしてから家を出発した。ジュールズ曰く、することが山ほどあってとても忙しい一日になるとのこと。初めに観光客がよく来るとい、マングローブの木がある釣り場に行った。スカイラーはここに来るといつもマングローブに登るそうで、この時も登っていた。また車に乗って少し走り、バードアイランドという多くの鳥の住処になっているマングローブの群生地を車中から観た。大きな鳥が何十羽もいて驚いた。それから車内から海を挟んでセント・ピーターズバーグ市の都市部を眺めたり、きれいな建物があるゴルフ場を見たり、海辺を歩いて市内も観光した。また、セント・ピーターズバーグ市で有名なドンセザールホテルの中を見学した。創業時からのホテルの歴史やセント・ピーターズバーグ市の歴史についての展示があった。ここのホテルには、試合で遠征してくる大リーグの選手達も宿泊するそうだ。ホテルを出て少し歩き、昼食を食べに行った。食後、ノエルが色々なポーズをしてくれて写真を撮って楽しんだ。

その後、ガラス作品を展示しているチフリミュージアムに行った。色とりどりできれいな作品ばかりで、感動した。ガラスで作ったとは思えないような花や蕾のような形をしているものもあり面白かった。それから小さなプールへ行った。小学生低学年くらいの子供しか泳いでいなかったのに、私でも全く足の付かない深さになっている所もあった。インディゴとノエルと私で、いろんなポーズをとっ

てプールに飛び込んで遊んだ。それから水着のまま次は海へ行った。子供達はサーフィンや泳いで遊んでいたが、私はジュールズと浜辺に座って海を眺めながら話をした。夕暮れになった頃、海にある更衣室で着替え、市内に向かった。行先はジュールズがよく行くというオープンカフェだった。着くところには研修生の川井さんもいて、約1日分ぶりに日本語で自分達がしたことをお互いに話しあった。夕食はアメリカスタイルのお寿司だった。そのお店には日本のお茶のペットボトルなどもおいてあり、喜んで飲んだ。天ぷらやアボカドの巻き寿司のようなアメリカンスタイルのお寿司は初めてだったが、どれもすごく美味しかった。明日は朝が早いので、準備をして寝た。

## 7月23日(水)

朝起きて、準備をして市街地に行った。今日は昨年度の親善研修生として高松に来ていたケーシーとティエンの案内による市内観光だ。ケーシーは、昨年高松に来ていた時、学校訪問で私のクラスに来ていたため約1年ぶりの再会だった。私のことを覚えていてくれて嬉しかった。それから楽しみにしていたセグウェイでの市内観光。もちろんのことながら初めてのことで、うまく乗れるか心配だったけれど、練習して5分くらいで、すぐに自分の思うように運転できるようになった。全員が乗れるようになると、ツアーガイドに先導されながら、セグウェイで市内を観光した。海沿いの道を走ったり、公園で自由に走ったりして、とてもいい思い出になった。



人生初セグウェイ

昼食後はケーシーのお父さんが働いている、フロリダ州で一番シェアされている新聞、タンパベイタイムズの編集室を見学に行った。広いオフィスで驚いた。今まで発行された新聞をファイリングしているものの中からケーシーのお気に入りの記事を見せてもらったり、新聞の歴史を聞いたりすることができた。その後、南フロリダ大学、セント・ピーターズバーグキャンパスを見学した。すごくきれいなキャンパスでどんなことが勉強できるのか気になった。



ダリときめポーズ

その後、ダリ美術館に行った。現地連絡員のプランタムラさんの説明を受けながら、ダリの絵を見学した。普通に見て回っただけでは分からないダリの絵の背景が分かった。ダリの絵は、一見何を表わしているかというメッセージがあるのか分からないが、絵にはダリの複雑な思いや考えが込められており、興味深かった。見回った後、ミュージアムショップに行ったり、外にあるダリの作品の前で写真を撮ったりした。ホストファミリーとダリ美術館で落ち合い、タンパにあるバンドが生演奏するレストランへと向かった。そこでバーベキューを食べた。燻製の独特な香りがして日本のバーベキューとは違ったが美味しかった。演奏を聴いたり、テーブルゲームやピンボールをして楽しんだ。タンパから家に帰ったら夜遅く、すぐに寝た。

## 7月24日(木)

朝起きて、ホストファミリーが飼っている猫と遊んだり、インディゴとノエルが「アナと雪の女王」



の歌を歌ったり踊ったりするのを見て楽しんだり、映画を観たりして過ごした。そして久しぶりに学校の制服を着て、セント・ピーターズバーグ市役所に行った。まずは市役所内の建物内を見て回り、用意されていた食事を頂いたりして時間を過ごした。その後、地方局で流すためのコマーシャルを撮影した。内容はセント・ピーターズバーグと高松の歴史や、ホストファミリーやスタッフのみなさんへの感謝の言葉を伝えるものだった。用意されていた英文がきちんと読めてよかった。その後少ししてから市長表敬に向かった。セント・ピーターズバーグ市からプレゼントを頂いたり、私達が預かった高松からのお土産を渡した。市長さんがお土産を喜んでくださって良かった。私達はセント・ピーターズバーグ市の印象や残りの滞在中にしたい事、高松市について市長さんとお話した。その後は市議会表敬に向かった。ここで私達が事前に準備をしていた香川県、高松市の観光、文化、産業を紹介するプレゼンテーションをした。私は地元である屋島を紹介した。事前研修で実際に研修生と一緒に屋島に行って学んだことを伝えることができた。練習しただけあって今までで一番上手に出来たので、目標としていた香川県や高松市の魅力の伝えることができ安心できた。



市長さんと



レイクウッド高校

市役所を後にして、ケーシーのお母さんの車で、ケーシーが通っていたレイクウッド高校を見学しに行った。レイクウッド高校では、昼食は教室を出て外で食べると聞いて、日本と違っておもしろいと思った。授業で使用する教室にも入ったが、日本の学校とは雰囲気が違って広く感じた。陸上のトラックとアメリカンフットボールのフィールドがあるグラウンドを見た。すごく大きな観客席もあり、高校の施設とは思えないものだった。また車に乗って、スカイウェイブリッジを通りパーキングに行き、ブリッジを背景に写真を撮った。名前の通り空への道のように、橋自体に高低差があつて眺めがとても良かった。その後、通りがピンク色に舗装されている、ピンクストリートにあるケーシーの叔母さんのトビーの家に行った。ケーシー、ケーシーの妹や従兄妹から、Tシャツや手作りのブレスレット、お菓子などのプレゼントを貰った。私も何かお土産を用意しておけば良かったと後悔した。なんとこの日の朝にトビーは階段を踏み外して、足を怪我していたのにも関わらず、トビーの家族が協力して私達のために日本料理を準備してくれていた。白ご飯、トンカツ、餃子、トマトの入っている蕎麦サラダ、味噌汁はどれも本当に美味しく、全部食べた。その後に出てきたレモンのケーキは、甘ずっぱ過ぎてほとんど食べることはできなかった。食後は犬と遊んだり、家から見える海の景色を見たりして楽しんだ。それからボーリング場に向かい、ホストファミリーなどとも合流して、ボーリングをした。久しぶりのボーリングだった為、あまり上手くできなかったが、みんなと盛り上がりながら楽しい時間を過ごした。家に帰ってから、インディゴとノエルと少しの間遊んでから寝た。



スカイウェイブリッジを背景に

## 7月25日(金)

この日からホストファミリーの子供達3人は、ニューヨークに住んでいる祖父母宅に出かけた。私はジュールズとタンパにあるインターナショナルモールに買い物に行った。とても大きな店で日本にもあるようなブランド店や、また日本では見たことの無い雑貨屋やカフェがあって、とても楽しかった。一通りお店を見て終わり、屋上にあるレストラン街の中から私が選んだお店で昼食をとった。そこで私はアメリカで初めてのピザを注文した。とても美味しかったが、一人では食べきれない大きさだった。食後のデザートにチーズケーキを食べるつもりだったがお腹がいっぱいだったので断念した。帰宅後、大リーグのタンパベイ・レイズの試合観戦に行くため、ジュールズはチームカラーの青いドレスに着替えた。球場のトロピカーナフィールドに着くと、もうゲームは始まっており、対戦相手のレッドソックスに1点取られて負けていた。球場の雰囲気は、観客のみんなが一体となって応援していて、楽しかった。私が最も楽しみにしていた大リーグ観戦なので、地元チームであるタンパ・ベイレイズに是非とも勝ってもらいたかったので、周囲の人達と一緒に応援した。ゲーム終盤にはレッドソックスに日本人投手の田澤選手が登板した。同じ日本人として、このようにアメリカで活躍していて凄いなと思った。ゲームは逆転また逆転を繰り返し6対4でタンパ・ベイレイズが勝ち、大盛り上がりだった。私はもっと他の大リーグのゲームも観戦してみたいと思った。ジュールズと私は、ゲームに勝てて上機嫌で家に帰って寝た。



メジャーリーグのマスコット達と

## 7月26日(土)



ガラス作品作成中

朝は最初に、市街地にあるロシアの伝統的な美術品やジュエリーなどを販売しているお店に行った。たくさんのかわいいマトリョーシカや小物入れ、ガラス製品などが売られていた。このお店はジュールズのお気に入りらしく、よく行くそうで、店員さんとも顔見知りであった。その店員さんによると、このお店の作品は日本で開催されている石を使った作品のコンテストで何度も入賞したことがあるらしく、日本語で書かれた賞状や盾があった。その後は歩いてさまざまなお店をウィンドウショッピングした。ホストファミリーの家で飲んで私が気に入った紅茶の葉を購入した。ビルの屋上に行き、上からセント・ピーターズバーグ市の美しい景色を一望した。ホットショップという、火曜日に行ったチフリ美術館に展示されている作品を作っている現場に行き、解説付きで見学した。説明はわからないことが多かったが、実際に作業を観て、少しずつ大きくなるガラスにとっても感動した。その後は、製作場の隣接するお店で色とりどりのガラス作品を観て楽しんだ。

その後、たくさんの船が停泊している港の近くにあるオープンカフェで昼食を食べた。ワッフルとチキン、ポテトがついているメニューだったが、たくさんの量で食べきれず、持ち帰りをした。途中、小さな鳥が飛んできて、少しパンを投げると食べるからとジュールズに言われたので、投げしてみるとすぐに寄って来て、持って行った。それからミュージアムファインオブアーツに行った。そこでは、



名物おじさんと

主にアジアの作品が展示されていて、日本の作品も数多くあった。日本のものが外国で評価されている事に嬉しく思った。

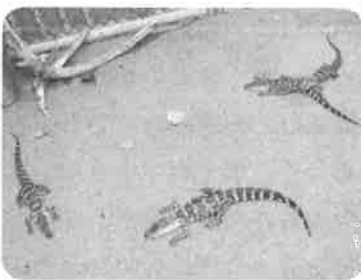
この日の夜は、地元のサッカーチームのタンパベイ・ローディーズの試合を観に行った。特製のうちわやローディーズのネックレス、ほっぺたに貼るステッカーをもらい、応援してすごく盛り上がったが、残念ながらローディーズは負けた。顔にローディーズカラーの黄色と緑色のペイントをしているローディーズのファンの間で有名なおじさんと写真を撮った。またグラウンドに降りて、選手達にサインをもらったり、写真を撮ったりして楽しんだ。会場の外に出て、ジュールズの友達やローディーズの選手の奥さん達と少し話をしてから家に帰って寝た。

## 7月27日(日)

この1週間は、朝から晩まで予定が詰まっていたので、充実疲れか、朝は遅くまで寝ていた。昼過ぎから、ティエンの通っているセント・ピーターズバーグ高校を外から見たり、ジョンズパスという多目的商業施設のような所で、海を眺めたり、ろうそくをおしゃれに加工して売っているお店を見たり、大リーグ全てのチームのグッズを売っているショップなども見た。それから、ワニなどがいる小さな動物園に行った。小さなワニから大きなワニまでいて、間近で見ることができた。怖かったが、とても楽しかった。



大リーグならではの品揃え



動物園のワニ

それからスーパーマーケットで果物を買って、久保君の1週目のホストファミリーの家に向かった。家に着くと、もう全員揃っていて、早速水着に着替えて、プールで遊んだ。飛び込んだり、バレーボールをしたり、泳いでプールを満喫した。食事は、みんなが持ち寄った料理を、プールサイドで楽しんで食べた。タンパベイ・ローディーズに所属している山田選手も来ており、私がアメリカに来て何回も蚊にかまれたと言うと、山田選手が虫除けスプレーをプレゼントしてくれた。

このプールパーティーは、2週目のホストファミリー交代も兼ねていた。2週目のホストファミリーの3歳のホストブラザーのマックスが疲れたらしく、みんなより一足先に帰ることになった。2週目のホストファミリーは、料理上手なホストファーザーのポール、大学院で英語の先生を教育しているホストマザーのニコル、1人息子のマックスの3人家族だった。ジュールズにお別れを述べてから出発した。家に着くと、マックスが粘土遊びを披露してくれて、一緒に粘土で遊んだ。その後、日本のお土産を渡した。子供向けの絵本も喜んでくれてうれしかった。2週目も楽しい週になるだろうと思った。それから荷物などを整理してから寝た。

## 7月28日(月)

この日は、久保君と私のホストファミリーで、まずはタンパにある動物園に行った。動物園の中には、いくつかアトラクションがあり、私と久保君は、ジェットコースターの船下り版「ゲーターフォールズ」に乗った。ベルトも無く心配だったが、急降下する時、2人で叫んで水しぶきで濡れて楽しんだ。それからマックスの好きなものに乗ったり、サファリアフリカゾーンではバスに乗って様々な動物を間近で見ることができて面白かった。昼食は、「美食軒」で中華料理を食べた。



恐怖のアトラクション

ホストマザーのニコルは、タンパで働いていて、よくここに来るとのことだった。お勧めのやきそばや豆腐の揚げものなどは私達の口にすごく合っていて、お腹いっぱいになるまで沢山食べた。食後はマックスとお絵描きをして楽しんだ。



大きなロッカー

次は、アメリカンフットボールのタンパベイ・バッカニアーズのスタジアムツアーに参加した。ここはサッカー日本代表がワールドカップ前の練習試合を行った場所だった。このツアーにはいろんな国籍の人が一緒に参加していて、人気の高さを感じた。まずはスタジアムの芝生の一部に入り感触を楽しんだ。次にロッカールームに行き、一人のロッカーの大きさに驚いた。次はVIPルームの中に入り、スタジアムを観たが、そこからの眺めは最高で、いつかVIPルームからゲームを観てみたいと思った。スタジアムには遊具として船が置いてあり、そこで記念撮影をしたりした。設備の規模の大きさにすごく感銘を受けた。夕食後、ヨーグルトロジーというアイスクリーム専門店に行き、自分で好きなアイスとトッピングをチョイスし食べた。アイスクリームを量り売りするようなお店は高松では無いので、とても楽しく食べることができた。



マックスダイナソー

その後、海辺に散歩をしに行ったら、すぐ足下で、イルカを観ることができて、とても貴重な体験ができうれしかった。家に帰ると、好きな映画でもドラマでも観ていいよと言われ、アメリカのドラマ「Glee(グリー)」を観た。日本で観たことがあったので、英語版でもだいたい理解することができた。3話見てから寝た。

## 7月29日(火)

今年度受け入れ研修生で高松へ来ていたのマヤとマラック、そしてケーシーとティエンと一緒にセント・ピーターズカレッジ(通称SPC)に行った。ここには日本人の学生も在籍しているらしい。校



音楽の授業

内には音楽が作れる設備が整えられたレコーディングルームや作曲ができる鍵盤とパソコンのセットになった設備があった。また、学校にあるプラネタリウムも体験した。大学のコンビニに行くと、日本のお菓子が販売されていて、驚いた。それから車に乗って、モリアンアートセンターと言う陶芸体験のできる場所に着き、始めに日本式の陶芸用の窯を見学し、こちらで作られている作品や作業場等の施設を見て回った。その後、ロクロを使った花瓶の製作現場を見学した。私達に



初めての陶芸

トファミリーに披露した。それから、浜辺に座り、サンドイッチを食べたり、おしゃべりをしたり、きれいな夕陽を背にたくさんきれいな写真を撮った。家に帰ったら疲れたので着替えて寝た。

も粘土が配られ、作品作りを始めた。私は初め何を作ろうかと迷ったが、結局、花の置物と自分のイニシャルのHをハートの上に置いた作品を作った。出来あがって届くのが楽しみだ。帰宅後、水着に着替え、海に出かけた。始めにホストファーザーのポールとフリスビーをし、少し海に足を着けて遊んだ。それから浜辺で砂の城を作ったり、集めた

貝殻で「日本」と漢字で書いて、ホス



綺麗なサンセット

## 7月30日(水)



セスナを操縦

今日は研修でセスナに乗るため、飛行場にニコルの車で向かったが、場所がわからず少し迷ってしまったが、なんとか到着し、すぐにセスナに乗り込んだ。私は前の副操縦席に座り、フライトを楽しんだ。少し操縦してみたが、変な所へ行ってしまうようで怖かった。先日行ったスカイウェイブリッジやビーチで楽しそうに遊んでいる人々を見たり、市街地からの上空の旅を楽しんだ。小型機で少し怖かったが、無事着陸することができてよかった。

その後、皆で車に乗ってマラックがボランティアで働いているという小児病院、オールチルドレンズホスピタルに向かった。すごく大きい病院なのに子供だけしか診ないと聞いて驚いた。病院についての説明を受けた後、様々なシチュエーションで子供の手術を練習する手術室の見学に行った。本当に手術する部屋と全く同じ設備がされているらしかった。手術台には本当の子供に見立てたロボットが横たわっていて、病院が苦手な私は少し怖いと感じた。その後個室の病室や新生児が休んでいるところや遊具、家族が手術している子供を待つ待合室、食堂なども見学させてもらった。昼食はマラックがアルバイトしているスーパーマーケットでアメリカン寿司とチキンを買って川井さんと一緒に食べた。パンを焼いているところや肉をさばいているところなども見学させてもらった。

それから、セント・ピーターズバーグ市の歴史博物館に行った。セント・ピーターズバーグ市の飛行機の歴史や戦争について、説明してもらいながら回った。野球について展示しているところもあり楽しんで見て回った。

この日は私がお好み焼きを作ることになっていた。材料を買う際に、日本では当たり前売っている豚肉の薄切りを買う事ができなかったのには少し戸惑ったが、家に帰ってからポールと作り始めた。ニコルも手伝ってくれて、スムーズに作ることができた。マックスは寝ていたのでポールとニコルと私で食べた。おいしいと言ってくれて嬉しかった。後から起きたマックスはプレゼントしたお箸を頑張って使いながら食べてくれて美味しいと言ってくれた。食後はニコルの提案で映画を見に行った。映画まで時間が



マラックと

あったので買い物をしてから映画館に行った。「マレフィセント」というアンジェリーナ・ジョリーが主演の映画を見た。英語で分からない所もあったが、映像だけでも楽しめる楽しい映画だった。お互いの映画の感想や日本に帰ったらもう一度見てみるなどと話した。映画をととても満喫することができた。

## 7月31日(木)

この日はよく寝て、ゆっくりとした朝を迎えた。ニコルに久保君とプール行くと言われたので、水着などを持って久保君がホームステイしている家に向かった。久保君のホストファーザーのビクターと飼犬に出迎えられた。ビクターによると久保君はまだ寝ているらしく起こしに行った。起きてきた久保君は家に私が居ることに驚いていた。ニコルと2人でソファーに座って本を見たりして、久保君の身支度ができるのを待った。久保君の準備ができてから、ビクターと別れて、プールに向かった。着いてから、ニコルはもうすぐポールとマックスが来るから着替えて待っててと言って、仕事のために帰宅した。着替え終わって少しするとポールとマックスがやって来た。初めに久保君とプールの飛び込み台から飛び込みに挑戦することにした。まず久保君が飛び込んでから私が飛び込んだ。久保君は二回転しようとして入水に失敗し、お腹を強打して赤く腫れて痛そうだった。私も少し入水に失敗して背中を打ったが、この後5分もしたら痛みはひいた。それからマックスが遊んでいた子供のプールに行き少し遊んだ。マックスは水が怖いらしくまだ泳げないそうだが、普通のプールでは、浮き輪をつけながらも短い距離を泳いでいた。私達よりずいぶん遅れてやって来たビクターは自身がしているトライアスロンの練習でプールに来ていて、泳いでいた。家に帰る時間になり、それぞれのホストファーザーと帰った。



研修生大集合



セイジ先生と

その後、ホストファミリー全員でウェルカムパーティが開かれるサンケンガーデンに行った。着いてからは用意されていた軽食を食べたり、喋るオウムのミンディーを腕に乗せたり、話したりした。大体の参加者が全員揃ってからサンケンガーデンの庭をガイドの方と見学した。鳥や植物をたくさん見て回った。また、現地の国際交流委員会の方ともお会いすることができた。それから久保君と共にマラックの運転で、同年代だけで食事をしに行った。食事後はマラックの家でティーンズパーティーが開かれた。音楽を掛けて踊ったり、みんなでアメリカの高校についての話や、私の学校の友達の話したり、ゲームなどをした。少しすると、私の通う学校で1年間ALTだったセイジ先生がマラックの家に来てくれて会うことができた。1年の任期が終り、数日前にセント・ピーターズバーグ市に帰って来ていた。久しぶりに会って、私がこちらに来てから体験したことや、私の学校の先生について話したり、写真を撮ったりしてとても楽しかった。ビクターが迎えに来てくれ家まで送ってくれた。時間も遅かったので荷物の整理をして、すぐに寝た。

## 8月1日(金)

朝起きてすぐ、ポールと一緒に離島にあるカヌー体験ができるところに向かった。久保君とビクターも来ていた。最初は久保君と2人でボートに乗り、海の近くまで漕いで行った。途中マナティがのんびり泳いでいるのが見えた。1人乗りのボートに乗り換えていた久保君はマナティにボートを押ししてもらっていた。私は近くにきたマナティをさわることができた。よくカヌーに来るといふビクターも今までマナティをさわったりすることは一度もなかったらしく、とても私達はラッキーな体験ができた。



カヌー来たぞー

帰宅してから隣の家の人とニコルと私で、買い物に行った。さまざまところに連れて行ってもらい、たくさん買い物することができた。本屋に行った時、1週目のホストファミリーのノエルに勧めてもらった「タイムトラベラーズワイフ」という本を1冊買った。タイムトラベルできる主人公が好



ティエンとシャッフルボード

きになった女性の過去や未来を見るうちに自分とも関わりがあったと分かるという内容で、映画化もされている。ニコルは夢中になって読んだと教えてくれた。日本に帰って、頑張っ読んで感想聞かせてね、とも言われていた。その後、カーリングのようなアメリカのスポーツ、シャッフルボードをした。ケーシーにルールを教えてもらい、ケーシーとチームを組んで、ティエンとケーシーのいこと戦った。腕で円盤押す力の加減が難しかったが、得点して勝つことができた。

ニコルの体調不良のためこの夜から1週目のホストファミリーに戻るようになっていたので、ニコルとお別れしてからジュールズの車に乗って帰った。ちょうどこの日はニューヨークにある祖母の家に行っていた子供達が帰って来る夜でもあり、また家が賑やかになって嬉しいと言ってくれた。

## 8月2日(土)

起きてから少し子供達と遊んでからミュージアムオブファインアーツへ行った。ジュールズの友達のアーティストの方が開いていたビニールや雑誌の切り抜きで作品を作るワークショップに参加した。食べ物や人、文字などを切って自分の好きなように並べた。簡単だったがかわいい作品が出来た。ゴミになってしまうようなビニール袋や雑誌を使ってアートにしてしまうなんて、発想が自由でいいなと思った。

昼食に、1週目の間に作ることはできなかったお好み焼きを作った。インディゴと協力して作った。焼くには時間が掛かったが皆楽しみにしてくれていた。ノエルの苦手なエビをお好み焼きに入れてしまっていたが、エビをのけて食べるとおいしいと言ってくれた。他の皆もおいしい、ありがとうと言ってくれた。作っている最中にノエルはおもちゃのスタンドマイクで歌ってくれたりして、楽しかった。



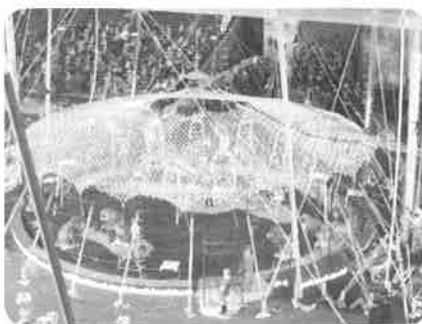
インディゴと作品

少ししてから車で近くの公園に行った。久保君のホストファミリー、私の2週目のホストファミリー

も一緒にキャッチボールやサッカーや鬼ごっこ、綱渡りなどして遊んだ。久保君はたくさんの子も達に囲まれていて大変そうだった。遊んだ後、ノエルがとても行きたがっていたアイスクリームを食べに行った。私はたくさん種類があって困ったのでいくつか試食させてもらい、イチゴとマンゴーのジェラートを食べた。夜も遅かったのに、ジェラート屋の行列は無くならないくらい人気のお店だった。外で夕食を取り、小雨が降っている中、帰宅した。

**8月3日(日)**

午前中は家でのんびりとして、昼前くらいに車に乗ってサラソタにあるリングリングミュージアムオブアートに行った。名前にもなっているリングリング氏はサーカスで財をなしたという。美術館はとても広く、全てきちんと見て回ろうとすると2週間くらいはかかるそうだ。ある男の人が一人で作り上げたというミニチュア模型の展示を見た。中でも一番すごいと思ったのは、サー



**リアルなサーカス**



**不思議な鏡で脚長**

カス場だ。檻の中で猛獣と芸をする人や、ローブにつかまってクルクル回っている人、観客も一人一人表情が違っているように見えて面白かった。また、どこまでも丁寧に細かく作られていて見ていて飽きなかった。もっとじっくりと見ていたかったが、他の場所にも行くため、ここを後にした。次に向かったのは、実際にサーカスで使用されるものなどが展示しているところへ行った。サーカスの技をととても簡単に擬似体験できるものもあった。ピエロの化粧を紹介しているビデオなども見られて面白かった。最後は、列車のレプリカや体が細くなったり、太く短くなったりする不思議な鏡や、1つの首から2つの顔が出ている面白い絵を見て楽しんだ。またリングリング氏がかつて住んでいた屋敷を見に行ったら。とても広くて、中は映画に出てきそうなくらいゴージャスだった。海に面している家の外に出ると、ダンスを踊ったりできるスペースもあってとてもロマンチックだと思った。

その後、買い物も食事もできるお店がたくさん集まっているところに連れて行ってくれた。色々見て回りながら買い物して、夕食はコロンビア料理を頂いた。食事はどれも美味しかった。途中、あるウエイ



**サーカス団の三兄妹**



**素敵なお屋敷**

トレスさんがしてくれたマジックを皆で挑戦して楽しかった。

帰りの車中ではぐっすり寝ていた。遅い時間の帰宅だったが、朝が早いのでシャワーを浴びることにした。浴びようと浴槽に入ろうとすると、カーテンで足を滑らせカーテンレールを落としてしまった。2年前に来ていた研修生も落としたことがあったらしく、気を付けてと言われていたので、私はいつも慎重にしていたが、最後の最後に落としてしまった。すぐにジュールズとインディゴ



に直してもらい、気を取り直してシャワーを浴びた。この2週間のことを振り返っていると知らない間に寝ていた。

## 8月4日(月)

朝は5時起きでとても辛かったが、全ての準備をして、軽い朝食を食べて家を出た。空港に着いてまず荷物を預けた。規定より重かったが中の荷物を少し抜くと、大丈夫になった。ゲート近くに行き、ホストファミリーとの最後の時間を楽しんだ。絵を描いたり写真を撮ったりした。搭乗の時間が迫ってきていたのでいよいよホストファミリーとお別れの時となった。一生の別れではないとしても、やはり寂しいもので、目には少し涙が溢れてきた。ジュールズやインディゴも涙をこらえていて、より一層寂しい気持ちになった。でもやっぱり最後は笑顔で挨拶したかったので涙をこらえて笑顔でさようならをした。私たちは生きていく限り、どこかで絶対会うことができる。だからいつかまた皆に会



空港で最後のポーズ

おうと心に決めた。出国審査を無事受けて、中のお店で買い物をしてからロビーの椅子に座った。最後の見送りに来てくれていたセント・ピーターズバーグ市役所のエリザベスさんとキムさんとそれぞれの思い出話を話したりした。いよいよ搭乗時間となってお二方ともお別れをして飛行機に乗り込んだ。

シカゴ空港では陽気なカナダ人夫婦と話したりできて楽しかった。成田空港に無事に着き、セント・ピーターズバーグ市での思い出話をしたり、本を読んだりしながら時間を潰して高松行きの飛行機に乗り、高松にも無事帰って来られた。空港で母の顔を見た時、高松に帰って来たんだと改めて実感した。今回、私達に関わった人達みんなが温かく受け入れてくれて、セント・ピーターズバーグが本当に好きになった。いい意味でたくさん刺激を受けた2週間、ありがとう!!

## 感想文



高松市立高松第一高等学校 2年

吉岡 花瑛

### Spice of Life

私は高校生親善研修生として姉妹都市のセント・ピーターズバーグ市に行けて本当に良かったです。2週間という短い期間の中でたくさん経験をして刺激を受け、思い出をたくさん作ることができました。

私がセント・ピーターズバーグ市に行って一番感じたのは自分の英語力不足です。一生懸命気を張りながら理解しようとしても知らない単語や言い回しが出てくると分からなくなってしまったり、疲れてくると集中力が切れて全く理解出来なくなったりもしました。また、単語などが分からなくて言いたいことがあるのに伝えられない悔しさも感じました。もっと聞けるように、もっと話せるようになるためにはまだまだ努力が必要だと思いました。

今回の体験を通じて何事にも積極的になろうとも思いました。言ってもどうせだめかなと意見を言い出せなかったこともありましたが、私の出会った人たちは自分の意見を明確に持っていて、それをしっかり皆に伝えていました。人の考えを認め、受入れた上で、私も自分の意見を明確に持って発言していけるようになりたいと思います。

また、これからはもっと周りのことを知ろうと思いました。同世代のアメリカの子たちは、政治に音楽、国際関係や歴史など広い範囲に興味を持っていてそれらについての豊富な知識も持っていました。話そうにもそのことについての知識がないと意見を持つことすらも出来ません。ニュースや学校の授業、新聞など身の回りにあることからもっと知っていこうと思いました。

このような体験から留学の夢が膨らみました。いつか英語だけという環境の中でちゃんと英語に向き合って、英語で勉強してみたいです。

ホストファミリー、セント・ピーターズバーグ市職員の皆さん、友達、出会ったすべての方々のおかげで私を受け入れてくれて本当に嬉しかったです。温かくサポートしてくれて困ったこともなく快適な2週間でした。素敵な思い出が詰まった2週間になりました。

高校生親善研修生として私なりに高松の魅力をセント・ピーターズバーグ市で発表することができ、またセント・ピーターズバーグ市についてもたくさんの事を知る事ができました。今後、この体験を周りに発信し、姉妹都市との交流を深めていきたいです。

私がセント・ピーターズバーグ市に行くにあたって協力してくれた家族やこの機会をくださった人たち、すべての方々に感謝します。ありがとうございました。

